

令和6年度使用小学校用教科用図書

調 査 資 料

国語・書写・社会・地図・算数・理科・生活・音楽・

図画工作・家庭・保健・外国語・道德

第14採択地区教科用図書採択協議会

【国語科 調査資料１－１】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい国語	2 東 書
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と４月の教材群のカリキュラムを対応させている。 ○説明文の後に「情報のとびら」を位置付け、関係・論理・整理・調査の４観点で系統立てた教材を使い、言葉の習得と活用を身に付ける工夫がされている。 ○単元ページに見開きで学習過程を掲載することで、単元全体を見通せる工夫がされている。 ○「話す・聞く」単元の構成に視覚的工夫がされている。 ○外来語について、国別の表示や例が多く挙げられている。 ○巻末に系統表を掲載している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○人物の心情変化を音読で表現する取組を行う（５年生） ○「話すこと聞くこと」聞き手が納得するような構成を考えて話す活動を行い、他教科に生かせる工夫をしている。 ○学校の行事や活動の流れに合わせて「書くこと」「話すこと・聞くこと」の単元を設定し、生活に生かせる工夫をしている。 ○「読むこと」と「書くこと」の学習を関連付けて行うことで、考えが深まるような工夫がされている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○各単元に「学習の流れ」が示されているので、児童が見通しをもつことができる。下段に話し合いの例が具体的に示され、取り組みやすい工夫がされている。 ○「見とおす」「取り組む」「ふり返る」という学習の流れが明確にされ学び方なども配慮されている。 〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉 ○学校図書館や、地域の図書館などの社会施設に関する教材を設定し、自分の知りたい情報を得る方法が示されている。 ○「本を読もう」で単元に関連性のある本を表紙写真と短い案内文で紹介している。	
資料	○全学年を通してのQRコード総数５８６ ウェブサイトで参照できる工夫がされている。 ○「言葉」の単元においてQRコードを使った練習問題が設定され習得への工夫がされている。 ○促音・拗音の小書きの文字を小さくして判別しやすい工夫をしている。 ○教科書の最初で、ノートの手書き方を詳しく掲載している。	
表記・表現	○１年生では、多層指導モデルM I Mの指導法を取り入れ、入門期の子供たちが読み書きで躓かない工夫をしている。 ○挿絵やイラストの効果を重視した工夫をしている。 ○物語・説明文は、行下へ５行ごとに行数字、一行ごとに・を付け見付けやすい工夫をしている。 ○UDフォント ○新出漢字は、読み方を太字、送り仮名を細字で表記し、頁下の新出漢字のフォントが大きい。	
総括	○１～４年生は上下の分冊５～６年生は、年間一冊となっている。 ○各教材の言葉を使った「言葉をふやそう」の文作りで、語彙の定着を図る工夫がされている。 ○「読むこと」単元の扉絵が大きく印象的に描かれ、情報量が多く見通しをもつ工夫がされている。	

【国語科 調査資料１－２】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	ひろがる言葉 小学国語	17 教 出
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○「ひろがる言葉」では、身に付ける語彙を示し、巻末の「言葉の木」では学習した語彙をまとめて掲載し、学習や日常生活で活用できるよう工夫されている。 ○情報活用能力を育成するために「学習の手引き」を構成している。また、巻末「言葉の道具箱」において「情報のまとめ」を示している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「ここが大事」では、教材の重点指導事項が示されており、汎用性のある学習のポイントとしてまとめられ、日常生活に即した多様な言語活動を扱い学習したことを広げていけるよう工夫がされている。 ○「ふり返ろう」では、２つの観点に□にレ点でチェックができる工夫がされている。 ○「読むこと」で学んだことが「書くこと」に関連付けされ、「書くこと」を通し、考えを深めたり日常生活に生かしたりする工夫がされている。 ○「話すこと・聞くこと」で目的や内容を明確にし、内容を整理しながら知りたいことを聞く活動を通し、学校行事や総合的な学習の時間に生かす工夫をしている。 ○説明文教材の前に学習に関連した「生かそう」を設置している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○学年で学ぶことを巻頭部で、上段に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」下段に言葉に関すること、読書に関することに分けて示し、見通しをもって学習できる工夫がされている。 ○「ふり返ろう」で、教材で学んだことを指導事項と言語活動の２観点で確認する工夫がされている。 〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉 ○「読む」教材に関連した本が紹介され、「本を読もう」では表紙写真とあらすじが掲載され、興味を喚起する工夫がされている。 ○公共図書館を紹介する教材を設定している。 ○「読書の広場」のレイアウトを工夫し、親しみやすくしている。	
資料	○全学年を通しての QR コード総数 212 ウェブサイトで参照できる工夫がされている。 ○「話す・聞く」は黄「書く」は青「読む」は赤「言語・漢字」は緑「文化」は黄土「読書」は紫で色分け表示され「何を学ぶのか」視覚で捉えることができる工夫がされている。 ○物語教材の導入で、考えさせたい場面を示している。	
表記・表現	○物語文での挿絵が効果的に表記されている。 ○未学習の漢字については平仮名で表記、かつ不自然な交ぜ書きを避けている。 ○「文型・話形」や「学習用語」など汎用的な知識は巻末に付録として一覧で示されている。 ○物語・説明文は、５行ごとに行数字、一行ごとに・を付け見付けやすい工夫をしている。 ○オリジナルフォント 字が若干大きい。 ○新出漢字は、読みが細字、送り仮名が太字。頁下の新出漢字はフォントが小さい。	
総括	○全学年上下巻の分冊 ○各単元や領域ごとに「単元の扉」があり、何を学ぶか、学び方が示され見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ○各教材の言葉を使った文作りで語彙の定着を図る工夫がされている。	

【国語科 調査資料１－３】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	国 語	3 8 光 村
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○１年生のスタートカリキュラムの中で学校生活の様々な場面や生活科、書写と関連させて取り組める工夫がされている。 ○巻頭の「国語の学びを見わたそう」で、流れを視覚化し、わかりやすく工夫をしている。 ○物語の後に「本は友達」説明文の後に情報にかかる教材を位置付け学習との連携を図る工夫がされている。 ○情報に特化した単元を設け他教科や日常生活で生かせるよう工夫している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「問い」をもって学びを進めることを巻頭冒頭で示し、日常生活や学校生活で芽生えた言葉に対する気づきや疑問が学びのきっかけになる工夫がされている。 ○説明文教材では、二つの説明文で最初に練習教材を掲載している。 ○巻末の別添に「思考ツール」を掲載し効果的。 ○学校行事や活動の流れに合わせて「書くこと」「話すこと・聞くこと」の単元を設定し生活に生かす工夫をしている。 ○「知る」「読む（書く 話す・聞く）」「つなぐ」の三つの観点での振り返りを設定している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○各単元の終わりの振り返りで、学んだことをどう生かしていくのか考える活動があり、自分の学びを実感できる工夫がされている。 ○各単元に学びの流れが図で表され、振り返りの書き方、国語以外の場面や生活に生かすところまで示されている。 ○学習課程に「問いをもとう」を導入している。 ○単元の導入部で「この学習で考えていきたいこと」を問いかける文を示すことで意欲を高める工夫をしている。 〈読書に親しむ態度を育成するための工夫〉 ○読書単元「本は友達」が２か所位置づけられ、学校図書館や地域の図書館などの施設を利用して読みたい本を見付ける方法や知りたいことを調べる方法が示してある。 ○「この本を読もう」の頁を設定し、なぜその本を紹介しているのか、どのような視点で紹介しているのかが書かれている。	
資料	○全学年を通しての QR コード総数 170 ウェブサイトで参照できる工夫がされている。 ○扉絵の内容は、単元名・これまでの学習・題材名・リード文（問いかけ） ○巻末の折り込み「図を使って考えよう」では、思考ツールを使って情報を整理する方法や整理した情報を伝える時の言葉を確かめられる工夫がされている。 ○「学習に用いる言葉」や「言葉の宝箱」を巻末にまとめて掲載して、語彙を広げる工夫がされている。	
表記・表現	○語のまとまりが捉えやすいように、単語や文節の途中で改行しないよう配慮されている。 ○新出漢字の読みは細字、送り仮名は太字で表記している。 ○頁下の新出を□で囲み、判別しやすい工夫をしている。 ○多彩な色覚をもつ児童に対応した資料の提示をしている。 ○学習用語をわかりやすい位置に配置している。 ○UD フォント ４年生上巻と下巻で、文字のポイント数を変更している。	
総括	○１～４年生は、上下巻 ５～６年生は年間１冊。 ○巻頭に「学習の流れ」が示されており、見通しをもって学習できる工夫がされている。 ○「問い」から学習が始まるように「問いをもとう」で子供の「問い」を引き出し主体的に学習の確認ができるよう工夫されている。	

【国語科（書写） 調査資料１－１】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい 書写	2 東書
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○２年生以上で「書写のかぎ」が設定されており、文字を整えて書くための知識や技能が分かりやすく示されている。 ○毛筆においては、穂先に朱墨を用いて、筆圧・はらい等の筆使いの流れがわかりやすく示されている。筆使いの基本では、顔のついたマークで穂先の動きが表されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○各単元導入の部分が問いかけの形になっていて、児童の思考を促している。どちらが良いかを選択させるものも多く、児童にとって比較しやすくなっている。 ○児童同士の話し合いを想定する場面では、話し合いのマークがあり、対話型の授業が促されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○２年生以上で、学習過程が「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「ふり返ろう」の４段階で示され、見通しをもって主体的に学べるようにしている。 ○課題に対して、書く上でのポイントを「書写のかぎ」で示しているが、「生活に広げよう」の発展学習の際に、どの「書写のかぎ」を用いるのかが示され、学んだことを生かして取り組めるように工夫されている。 〈毛筆と硬筆との関連〉 ○３～６年生の毛筆の学習では、毛筆の課題に沿った硬筆の課題が用意され、毛筆と硬筆とのつながりが意識できるようにしている。 ○水書の学習については、「いろいろな道具をつかって書いてみよう」というページで取り上げ、毛筆学習へとつなげられるようになっている。 〈各教科や日常生活との関わり〉 ○全学年において、「生活」という項目を二つずつ設け、ノートの書き方等の各教科に生かせる課題や手紙の書き方等の日常生活との関わりを意識できる題材を用意している。 ○目次のページには、日常からの課題が提示され、その解決法を漫画でわかりやすく伝えられている。	
資料	○巻末には、ひらがな・カタカナ・ローマ字表（３学年以上）、既習漢字・新出漢字等の一覧表、これまでに学習した「書写のかぎ」がある。 ○ＱＲコンテンツは、動画・シミュレーション・アニメーションの３種類で整理されている。	
表記・表現	○字形や配列等の「書写の学び」のどの項目かが一目でわかるように、ページの右上の部分が項目ごとに色別されている。 ○巻末にある「書写のかぎ」には既習のポイントが示されたページ数が表記され、そのポイントをふり返りやすくなっている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○二つの文字を比べたり、比べたことを表現したりする活動が設定されており、児童の思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。 ○デジタル補助教材が豊富で、自分のペースで確認しながら学習を進められるように工夫されている。学習における導入の際に使用するのに有効なＱＲコンテンツも用意されている。	

【国語（書写） 調査資料１－２】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学 書写	17 教出
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○単元ごとに「めあて」が明確に示され、学習する視点がわかりやすい。3年生以上は「ここが大切」に、めあて達成のための要点が示されている。 ○運筆のリズムを「すうっ」「とん」等の擬音語や動作で体感しながら身に付けられるようにしている。毛筆では朱墨を用いて、筆の向き・筆圧・払い等をマークでわかりやすくしている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○単元ごとに「考えよう」の部分があり、「～はどうなっているのかな」等と問いかけの形で、課題について児童に思考を促す工夫がされている。 ○児童同士で筆の運びを見合ったり、改善点を指摘し合ったりする対話的な学びを通して、課題を解決していく工夫がされている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○学習の進め方が、「つかむ・考える」「書く・たしかめる」「ふり返る」「生かす・広げる」の4段階で示され、見通しを持って学べるようにしている。 ○全学年に「書いて伝え合おう」の項目を設け、自分たちの書いた文字を「めあて」に照らし合わせて比べ合う例を示し、コミュニケーション力を高め合う工夫がされている。 〈毛筆と硬筆との関連〉 ○3～6年生の毛筆の学習では、学習の始めと終わりに、硬筆での「ためし書き」と「まとめ書き」を設け、自分の文字の成長に気づいたり毛筆と硬筆のつながりを意識したりできるようにしている。 ○水書の学習については、「水しょようしのつかい方」というページで取り上げ、水しょマークのあるところで活用できるようにしている。 〈各教科や日常生活との関わり〉 ○「レッツトライ」の単元では、発達段階に応じて、ノート・レポート・原稿用紙・手紙・新聞・リーフレットの書き方といった他教科の学習や日常生活の中で手書きが生きる場面が示されている。 ○目次のページに、その学年の教科書に載っている他の学習や日常生活に生かせる内容がわかりやすく紹介され、実際に必要を感じたときに活用しやすくなっている。	
資料	○巻末には、ひらがな・カタカナ・ローマ字表（3学年以上）、既習漢字・新出漢字（筆順を間違いやすい漢字には筆順も）等の一覧表がある。 ○QRコンテンツは、動画・ワークシート・資料の3種類で整理されている。	
表記・表現	○1・2学年の「めあて」と「ふりかえり」がリングのマークで見やすく示されている。振り返りが3段階の上、表情のマークで示せることは児童の発達段階に見合っている。 ○目次において、1年間の学習内容を写真やイラストで可視化されている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○「めあて」が分かりやすく示されており、授業に取りかかりやすい。大切なポイントもまとめられていて、指導事項が明確になっている等、丁寧な作りとなっている。 ○基礎・基本を身に付けるための題材と、他教科や日常生活に生かしていくための教材、文字にまつわるエピソード等がバランスよく取り上げられていて、興味を持って学習に取り組める内容となっている。	

【国語（書写） 調査資料１－３】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	書写	38 光村
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○３年生以上で、「ねらい」と「学習の進め方」と「たいせつ」（学習内容）がセットで示され、知識や技能におけるポイントを確認しながら進められるようになっている。 ○「とめ」「はね」「はらい」等の筆使いを、猫のキャラクターが全身で表現していたり、穂先のマークが使われていたりしているので、筆使いがイメージしやすくなっている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○各単元で、「考えよう」が設定され、児童の思考を促す場面があり、思考力や表現力を育成する工夫が見られる。 ○自分が書いた字をふり返るための視点を取り入れた場面があり、自分自身で改善点を考えられるようにしている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○各単元で、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の学習過程を示し、見通しをもって学べるようになっている。 ○全学年の最後のページに、１～６年生までの学習の系統図が示され、６年間の見通しを持てるように工夫されている。 〈毛筆と硬筆との関連〉 ○単元ごとに、毛筆の学習のまとめとして硬筆で書くようにし、毛筆と硬筆との関連が図られている。 ○水書の学習については、「水ふでで書いてみよう」のページで取り上げ、単元にマークを付けて水筆を活用する場面が示されている。 〈各教科や日常生活との関わり〉 ○「書写広げたい」の項目で、国語はもちろんのこと、算数・理科・生活・外国語等の他教科への学びへと広げるとともに、学んだことを日常生活にも生かしていけるよう工夫されている。 ○ノート、手紙、横書きの書き方等、日常生活や各教科における具体的な活用例が、各学年２項目ずつ取り上げられている。	
資料	○全学年に、ひらがな・カタカナ・既習漢字・新出漢字等の一覧表が載っている。４年生以上は、ローマ字表や都道府県の漢字等も掲載されている。 ○ＱＲコンテンツは、動画・写真・アニメーション・資料の４種類で整理されている。	
表記・表現	○ねらいは、「～に気をつけて書こう」「～を意識して書こう」「～を工夫して書こう」等と学年や単元によって表記をかえている。 ○学習のポイントを示す「たいせつ」には、学習した順に番号が振られ、巻末のまとめでふり返るようにしている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○全学年に「先生・保護者の方へ」の項目を設けている。家庭からの応援メッセージを記入する項目や家庭に向けた書写学習についての説明の項目等もあり、家庭との連携を積極的に図ろうとしている。 ○１年生に「しゅしゃスタートブック」、３年生に「毛筆スタートブック」が構成されており、学習の最初に押さえるべき基本を確認できるようにしている。	

【社会科（社会）調査資料１－１】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい社会	2 東 書
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○学習上重要なキーワードを「ことば」として明示している。振り返っての学習のまとめにも活用できるようになっており、学習の基礎・基本が確実に習得できるようになっている。 ○随所に「まなび方コーナー」が設けられており、学習過程における活動の指針や方法が明示され、学習技能を系統的に習得できるようになっている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「まとめる」場面では、文章でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動を重視して、習得した知識を定着させるとともに、多様な表現活動で、思考力・判断力・表現力等を育成できるようにしている。 ○「いかす」場面では、社会的な事柄に参画・提案することができるように、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりする場面が充実している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「学習の進め方」で、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」を明記したり、巻頭に学年で学ぶことを提示したり、児童が見通しをもって学ぶことができるようにしている。 ○導入動画やインタビュー動画など、学習内容に関連した多数の動画がQRコンテンツとして収録されており、児童の学習意欲が高められる。 〈学習の問題を追及・解決する活動の充実を図るための工夫〉 ○「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習の流れについてそれぞれの学習段階ごとに留意することや活動等を具体的に示され、問題解決的な学習が分かりやすい。 ○見開きの適所に、キャラクターが目印の「見方・考え方」の囲みがあり、時間・空間・相互関係・考え方の視点をイラストで変え、どんな視点や方法を働かせればよいか明確である。	
資料	○全単元で、興味関心を高められるよう、資料が配列されている。 ○資料の年次、出典を明らかにして、見開きごとに資料番号がつけられている。 ○学習場面に応じて個別でも協同でも活用できる多様なQRコンテンツが250点以上と充実している。コンテンツを読み取ると、分冊ごとの全コンテンツにアクセス可能である。これによりページ数は現行のものより約5%減となっている。	
表記・表現	○本文と資料をはっきり区別できるようにレイアウトしてあり、UDフォントやカラーバリエーションを採用するなど、全ての児童に見やすく読みやすいよう工夫している。 ○学習問題や本時のめあてがやや難しい表現である。 ○学習過程を色分けして、各段階の活動が明確にされている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○各学年の冒頭に、「この教科書のつくりを見てみよう」が新設され、各学年冒頭で児童も教師も、見開き紙面の基本的なつくりを確認して学習に入ることができるようになっている。 ○全学年で「まなびのポイント」として学習活動を例示し、小単元を通じて「主体的・対話的で深い学び」につながるようにしている。 ○デジタル指導書がリニューアルし、内容が充実している。簡単操作で資料提示可能になっている。児童用デジタル教科書もある。	

【社会科（社会）調査資料１－２】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学社会	17 教 出
内容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○見開き１ページで１時間の内容が構成され、本文と資料を明確に区分したり、パターン化したレイアウトにしたりすることで、児童にとって学習しやすい構成になっている。 ○「まとめる」ページで、「思考ツール」などで整理する活動を例示することで、学習内容の習得・定着を図ることができるように工夫している。 ○活動の流れにそくして「学びの手引き」のコーナーを設けることで、学習を進めていくうえで必要な技能を系統的に習得できるように工夫している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「まとめる」のページには、「文章にまとめる」、「発表する」、「話し合う」などの様々な対話的な活動を紹介することで、思考力、判断力、表現力が育成されるように工夫している。 ○「選択・判断」場面のマークを付けることで、学習指導要領に示された「選択・判断」の場면을学習過程に位置付けられるように工夫している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「〇〇さんの話」を掲載し、多様な人々の姿や思いにも触れながら紹介することで、地域や日本に対する理解を深め、愛情や誇りの涵養を図ることができるように工夫している。キャリア教育にも生かせる。 ○「SDGs とつなげて考えよう」のコーナーを設けることで、将来の世代のことにも配慮しながら、地球規模で考え、地域から行動していこうとする社会の一員としての資質や能力の基礎を養うことができるよう工夫している。 ＜学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○学習の展開を示す「モデル図」を掲載しているため、児童が見通しをもって問題解決的な学習を進められる。 ○「問い」からの展開を意識した構成になっている。「社会的な見方・考え方」を働かせた学びが促される「問い」を例示することで、主体的な学びへとつなげる工夫している。 ○追究をふり返る場面や視点を提示することで、追究過程を意識化したり、学び方の改善をしたりすることができるように工夫している。	
資料	○資料の配置や配色によって、「社会的な見方・考え方」の視点や方法が、自然なかたちで引き出されるように工夫している。 ○「学習計画を立てる場面」をていねいに例示することで、「社会科の学び方」が身に付くよう工夫している。 ○統計資料は、比較したり関連付けたりしやすいようカラー、サイズ、レイアウトなどを工夫している。	
表記・表現	○読みに困難さがある児童にも読みやすく配慮した字のフォントやサイズを使用することで、教科書の読み取りによって知識を獲得することができるよう工夫している。 ○資料のネームにカタカナの記号を付け、どの資料に注目すればよいかを教師が簡潔に指示できるようにすることで、資料読解の技能を高める時間を確保できるように工夫している。	
総括	○「問題解決的な学習」の進め方や「社会的な見方・考え方」の働かせ方がわかるような構成になっていて、児童の調べる力や考える力が身に付く教科書になっている。 ○教科書における紙ベースの資料の豊富さはもちろん、QRコード・コンテンツも充実しているので、児童の関心や意欲を高め、主体的に楽しく学べる教科書になっている。 ○社会で活躍する人物の話や「選択・判断」の場面、人権教育や主権者教育を充実させていることから、実社会とつながる人材を育成しようという意図が読み取れる教科書になっている。	

【社会科（社会）調査資料１－３】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学社会	116 日 文
内容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○語句を側注「キーワード」で解説し、巻末にもその索引を設け、学習内容の定着を図るようにしている。 ○「学び方・調べ方コーナー」では、調査方法や表現方法、読み取り方を学習場面に応じて示し、観察力・資料活用力や表現力の基礎を身につけられるように工夫されている。 ＜思考力・判断力・表現力を育成するための工夫＞ ○単元末に、学習課題について自分のこととして考え、自分たちにできることを話し合う様子が例示されている。 ○様々な表現活動ができるよう、タブレットを用いる、図にまとめるなどの様々な提案がされている。 ○キャラクターがアドバイスをしたり、話し合いの様子を示したりすることで、思考がより深まるような工夫をしている。 ＜学びに向かう力、人間性等をするための工夫＞ ○「考えよう！SDGsコーナー」を３～６年で合計３２か所新設し、SDGsを通して日本や世界で見られる諸課題の意識を高められるように工夫されている。 ○教科書QRコンテンツを設けることで、自発的に学習を進め、まとめられるように工夫されている。 ＜学習の問題を追及・解決する活動の充実を図るための工夫＞ ○各単元に「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」の特設ページを設け、児童がSDGsの達成を自分事として考え、行動できるきっかけとなる教材を豊富に掲載し、個別最適な学習ができるように工夫されている。 ○「さらに考えたい問題」について、追究し、考えたことを話し合う協動的な学習の様子を漫画形式で例示し、主体的・対話的で深い学びを実現するように工夫されている。 ○巻頭に「社会科の学習の進め方」が提示され、小单元ごとに、問題解決的な学習ができるように工夫されている。	
資料	○地図などの資料については、掲載する情報が精選され、視点が明確になっている。 ○具体的な活動場面の写真や作業の資料があり、社会の営みと身近な生活がつながっていることが実感できるようになっている。 ○カラーユニバーサルデザインにも配慮し、色調や色の組み合わせの区別だけではなく、斜線やドットも使用している。	
表記・表現	○文章を正確に読み取れるように、本文を三つの役割に分けている。 ○本文には、読み取りやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○学習の基本となる語句を「キーワード」で取り上げている。 ○「見方・考え方」で社会的な事象の視点と学習方法が明示されている。	
総括	○QRコードが設定されているので、コードを読み取ると、動画やシミュレーション、ワークシートなどのコンテンツを利用でき、深く追求することができる。 ○SDGsに関するコーナーや特設ページを設けることで、持続可能な社会に向け、自分で考え、行動できるように工夫されている。	

【社会科（地図）調査資料１－１】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい地図帳	2 東 書
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「地図のきまり」では、地図記号や方位、縮尺や地形表現などイラストを使い説明されている。さらに「地図帳の使い方」では、より詳しく地図記号と縮尺について説明されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○アフリカやヨーロッパのページでは、その地域に生息する動物や各国の郷土料理の写真を載せており、我々が住んでいる日本との違いをすぐに捉えられるよう工夫されている。 ○各ページに「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」コーナーがあり、位置関係を児童自ら学べるよう工夫されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○各地の特産物や観光名所をイラストで示している。また、人物キャラクターが学習の手がかりを台詞で説明している。 ○QRコードを読み取ることで、4つの地域のドローン映像を視聴することができる。紙面からだけではとらえにくい地形の広がりや土地利用の様子について児童の端末を使用し理解できるよう工夫されている。 〈地図・資料の特徴〉 ○各地の伝統工芸品や名産品、郷土の偉人に関する記念館などを多数取り上げ、郷土に対する誇りと愛情を育くめるように工夫されている。 ○歴史の資料では多くの写真を使用し、日本の歴史的景観を確認することができる。	
資料	○「地図のきまり」と関連させて、ゲーム感覚で地図の基本や、地図帳の使い方を学べるQRコンテンツが用意されている。 ○各学年の学習に合ったイラストやQRコンテンツが用意されている。 ○索引にチェック欄を設けてあり、積極的な活用ができるようになっている。	
表記・表現	○人物キャラクターの台詞により、各ページの着眼点や課題が示されている。 ○県名、地名、川や海の名前を色分けしている。また、漢字にルビが振ってあるので難しい地名も読むことができる。 ○陸の高さと海の深さを段階に分け色分けすることにより、紙面上からでも高低が分かるように工夫されている。 ○日本の地図では、「この地図の位置」という資料を示し、日本全体のどの辺りなのかが示されている。	
総括	○QRコンテンツが充実しており、特にドローン映像は紙面上では理解しにくい地形や土地の様子を視聴することができる。 ○全体的に写真資料が多く使用されており、児童が理解を深められるように工夫されている。	

【社会科（地図）調査資料１－２】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	楽しく学ぶ 小学生の地図帳	46 帝 国
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「地図帳の使い方」では１４ページにわたり、地図の概念、方位や地図記号、索引の使い方などをスモールステップで説明している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○地図を見る視点を示唆したり、活用を促したりするキャラクターを適宜配置している。 ○他国の理解が深まるように、世界の州別地図及びアメリカ合衆国の地図には、産業、文化、世界遺産に関わるイラストや現地の生活の様子が分かる写真を掲載している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○主体的な学びを促すために「トライ！」と「地図マスターへの道」の２つのコーナーを設けている。 ○ＱＲコードでは、アニメーションによる解説やクイズ、動画やＶＲ画像など学びにつながるコンテンツが用意されている。 〈地図・資料の特徴〉 ○自然を大切にする態度を育むようにと「天然記念物」「貴重な動植物」「世界自然遺産」「ラムサール条約登録湿地」「世界ジオパーク」などをイラストや絵記号で掲載している。 ○日本各地の特色ある産業・生活に関わる地域主題図を掲載している。 ○持続可能な社会を実現するための考え方を育めるようにＳＤＧｓの特設ページを設け、関連する写真や図表が示されている。	
資料	○レイアウトの統一、文字やフォントの大きさ、色覚特性に配慮した色づかいなどユニバーサルデザインを意識した資料の掲示をしている。 ○地方・地域を表す地図では複数ページを示し、また、主要都市の中心部の地図も複数ページ示されており、児童が目的の場所を探しやすいように工夫されている。 ○索引では、県名、歴史地名、自然遺産、その他の地名で色分けされており、児童が探しやすいよう工夫がされている。	
表記・表現	○各図の着眼点や課題などを、人物キャラクターの台詞で示している。 ○各大陸及び各海洋の位置関係や大きさが正確に理解できるように、世界の州別地図は縮尺１／４０００万で統一されている。日本と関係の深い国々は別途拡大図を用意している ○土地の高さによる色分けに、市街地、田・畑などの土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現を使用している。	
総括	○ページ数が多く、各地域の地図ページが複数あり充実している。 ○ＳＤＧｓに関連した資料が多く掲載されており、各地域ページにもＳＤＧｓのマークを適宜示している。 ○「手話で表す都道府県」コーナーやパラスポーツの事例などを取り上げている。	

【算数 調査資料１－１】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい算数	2 東 書
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開で構成されている。適宜、キャラクターの吹き出しや補助発問が設けられていることにより、児童の思考の流れを助ける工夫がされている。 ○巻末に「ふりかえりコーナー」が設けられており、児童が主体的に必要なに応じて自力で既習内容を確認することができるよう工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○既習を想起し活用できるように促進するための吹き出しを設定してあるが、場面によっては、考える余地を残す吹き出しで、解決方法をすべて書かず、思考を助ける工夫がされている。「同じように考えると」を設定し、既習と同様に考えることを促進している。 ○「マイノートをつくろう」では、思考過程を大事にした記述をする工夫や、数学的な見方考え方を軸にした振り返りに活用することに重点を置いて設定されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「単元プロローグ」では、身のまわりの事象から数理を見いだす場面を用い、学習内容と生活の関連を強調し、日常生活に学習を生かそうとする態度が身に付くよう工夫されている。 ○「算数マイノートをつくろう」では、学習感想の観点として、次に学習してみたいことを記述させる工夫や、「算数マイノートを学習に生かそう」では、今後の見通しを記述してある例を示し、学習したことを進んで学習に生かそうとする態度が身に付くよう工夫されている。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○まとめの後に「それなら」を設定し、それまでの問題解決の過程を振り返り、新たな課題を見出し、解決の計画を立てて実行する力を育むための工夫がされている。 ○２次元コード「オープニングムービー」が３年以上に全２０本、新設された。日常生活の場面を想定し製作されており、学習の動機付けが工夫されている。 ○図形や図などを操作して思考を促進するシミュレーションを取り入れている。従来、切ったり貼ったりしながら操作していたような題材がデジタルコンテンツにより快適に同様の操作ができるようになった。	
資料	○１年①は、Ａ４版を使用し、紙面を広く使い数学的活動にスムーズに取り組める。また小中の円滑な接続のために、６年は年間１冊仕様である。「算数のしあげ」を設定し、算数の理解を確実にするための工夫がされている。 ○他教科との関連を考慮した教材が取り上げられている。児童にも関わりが理解され、算数の学習内容の価値が伝わるよう、関連のある教材については「リンクマーク」をつけ明示している。	
表記・表現	○問題文とまとめの文をそれぞれ枠で囲み、一目で問題文とまとめに着目できるように工夫されている。特に問題文の番号は大きく枠も太いために、着目しやすい。 ○新出用語は、太文字の使用に加え、マーカーを引き、とらえやすくされている。 ○ページ番号が上に配置され見やすく、また、他の数字と区別しやすいように白抜き文字のデザインで示されている。 ○実物の写真が使用され、実生活との関連が意識しやすいように配慮されている。	
総括	○吹き出しや補助発問を、単元前半、中盤、後半と、同様に設定するのではなく、その過程において必要なものに厳選し、後半に向けて段階的に減少させる等、児童が問題解決する機会を創出できるように工夫されている。 ○全単元において「めあて」と「まとめ」が明示され、数学的な見方・考え方の具体的な記述や丁寧な補助発問、吹き出しの設定により、学習の文脈を丁寧に可視化している。経験の浅い教員にも、どのように指導し、どのような資質・能力を育むか、紙面から読み取れる工夫がされている。 ○紙面には余白が多く、シンプルなつくりとなっている。	

【算数 調査資料 1－2】 第 14 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしい算数	4 大日本
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○「プラスワン」で、適応問題の他に、問題が解けるようにしている。またその問題も発展的なものを扱っていて、知識技能の確実な定着につながるものとなっている。 ○既習内容について、「〇年までのまとめ」でいつでも振り返ることができるようにしている。また、適切なタイミングで既習内容を確認できるよう、「ふりかえりマーク」を用いていて、児童が主体的に学べるようにしている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「算数の大切な考え方」では、いつも働かせたい見方・考え方として、演繹的な考え方・類推の考え方・帰納的な考え方・発展的な考え方のキャラクターがそれぞれ設定され、見方・考え方を働かせたい場面で登場し、ヒントを与えていて思考力を伸ばす工夫がされている。 ○全国学力調査で課題となっている「学習を活用する力」に焦点を当て、長文や統計資料から情報を読み取る力、根拠を説明する表現力を育成する問題を盛り込んでいる。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「おうちで算数」では、算数を活用する態度を育てるために、家庭との連携を図り、家庭での生活に生かせるように促す工夫がされている。実際にどのような活動をしたらよいか視覚的にも分かりやすく示されている。 ○算数のおもしろい問題や話題などさまざまな題材を豊富に用意したコラム「ふくろう先生のなるほど算数教室」を設け、興味・関心を高める工夫がある。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○各単元の主要な時間を「じっくり深く学び合おう！」と位置づけ、問題解決学習の流れをイラストを使って丁寧に示している。 ○解決方法を言葉で説明したり、図や式を結びつけたりするシーンを掲載し、数学的な表現力を伸ばす授業が意識できるようにしている。	
資料	○第 1 学年に A 4 判中とじ製本を新設している。ブロックが置けたり、直接ノートと同じ大きさで数字を書き込めるようになっている。 ○身近な内容に加え、算数に関わる S D G s のコラムを各学年に掲載し、持続可能な社会の実現を目指した算数教育を推進している。 ○豊富なデジタルコンテンツ（1400 個）が用意されていて、アニメーションや動画など、紙面とは別のアプローチで学習の理解を深めたり、技能を定着させたりすることができるようになっている。	
表記・表現	○導入から単元末の問題まで、単元内の構成を工夫している。授業における段階も問題解決学習の流れが書いてあり、学習の流れが分かりやすくなっている。 ○すべての児童に分かりやすくするため、カラーユニバーサルデザインや、ユニバーサルデザインフォントなどを採用し、誰もが学習に必要な情報を得ることを保障している。特に教科書体は、デジタル教科書でも読みやすい書体を使用している。 ○問題解決の流れがわかるようなタグをページ端に示しており、「今何をしているのか」が把握しやすい表記がされている。	
総括	○「算数の大切な考え方」を新設し、数学的な見方・考え方を児童に意識させる工夫がされた。「ひらめきアイテム」として、単元の学習で登場した数学的な見方・考え方を巻頭にシールを貼って集め、後の学習で活用し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる工夫がされている。 ○子どもたちの学びを豊かにし、教師にとって使いやすいことを目指して工夫がされている。 ○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得するために、単元の導入を工夫したり、見方・考え方をまとめたり振り返ったりすることを大切にしている。	

【算数 調査資料 1－3】 第 14 探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	みんなと学ぶ 小学校 算数	11 学 図
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○内容の系統性が強い算数の特徴を考慮し、基礎・基本の確実な定着と、既習の内容と新しい学習内容とのつながりをはっきりと位置付けている。基礎・基本から児童の思考の流れに沿った構成になっている。 ○巻末「今の自分を知ろう！」では、児童自身とその単元の学習を通して算数の力がどのくらい身に付いたか、どのように取り組むことができたかを振り返るための表を設定している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○複数の考え方が出てくるような課題では、それらの考え方を図や表、式などをもとにして示すことで多様な考えをもてるようにしている。対話的な学びを重視し、本文の様々なところで対話の場面をイラストで表し、話し合いながら学んでいく姿勢を育むことができる。 ○2年生以上では、前の学年で見つけた算数的な見方・考え方が綴じ込みで示されている。 ○汎用的な力を身に付けるために重要な9つの数学的な見方・考え方を、個性豊かなモンスターとして比喩的に表現し、場面に応じて登場させている。これにより、児童が楽しみながら数学的な見方・考え方を身に付けることができるようにしている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○問題発見の場面を漫画形式で表すことで、児童が新しい学習内容に接した時に、より身近に、そして自分事として考えることができるように工夫している。また、各単元の導入では、日常生活の様々な場面から児童が問題を発見することができ、興味・関心をもって学習に取り組めるようにしている。 ○「算数をつかって」では、算数の学習で身に付けた力を使って、社会の様々な問題に取り組む課題を取り扱っており、学びに向かう力を養うとともに、問題解決能力や人間性をより豊かにすることができるようにしている。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○課題を立てる段階を「調べたいな」「やってみたいな」「表したいな」「考えたいな」等で表し、主体的に対話的な学びづくりに取り組んでいる。 ○問題解決の場面で、図や表、式などを系統的に整理して、学習が積み上がるように構成されている。	
資料	○AB版で作られているため、教科書上での作業がしやすい。 ○日常場面から導入し、写真や半具体物を使って課題提示し、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようになっている。環境問題、安全・防犯教育、情報教育、キャリア教育、伝統文化、道徳教育など、現代における様々な問題を取り上げている。 ○教科書の脇に2次元コードが記載され、2次元コードを使って学習させることができる。 ○巻末には、図形や数直線、ブロックといった半具体物といった児童が操作するための資料が用意されており、全てミシン目が入っている。	
表記・表現	○問題、めあて、まとめ、新しい用語は太字で書かれ、新しい単位は読み方や書き方が記されている。ふりかえろうのページでは、重要な用語や内容が赤字で書かれている。 ○定義、公式、重要事項、計算の仕方、各時間の課題やめあて等が囲みや色付けで強調されている。 ○色覚特性に配慮し、どの子にも見やすく区別しやすい色やデザインが使われている。	
総括	○各単元の導入場面で、日常生活の一場面を取り上げ、児童が自然と問題意識をもち、そこから問題や課題を発見して取り組むことができるようにすることで、主体的な学びを促進できるづくりになっている。 ○算数における系統性や各学年のつながりを重要視している。特に6年生では中学校に向けた別冊が用意されており、小中連携に力を入れている。 ○教科書の左側に学習している内容が書かれていたり、思考の流れが記号で表されたりしていて分かりやすい。	

【算数 調査資料 1－4】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学算数	17 教 出
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○巻末の「学びのマップ」では、知識・技能を学年を超えてつなげる構成とし、学び直しを繰り返していくことで、基礎・基本の定着を図っている。 ○知識・技能を習得していく過程で重要となる児童のつまずきに対して「考えるヒント」を設け意識させることで、基礎学力の向上を図っている。 ○デジタルコンテンツを豊富に用い、毎時の知識・技能まとめをアニメーションで視覚的に表現し理解が深まるように配慮されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○数学的な見方・考え方のつながりが見える「つながるミカタ」を示し、各単元の見方・考え方を明らかにし、次の問題解決にもう一度活用させ、学びの深まりが実感できるように工夫している。 ○単元を中心となる数学的な見方・考え方を印象付けるために、単元末に「4コマ漫画」を取り入れ、学んだことを楽しく振り返りができるように工夫している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「算数ひろば」「算数ワールド」「もっとやってみよう」等では、内容を広げたり日常生活とのつながりに触れたりして、知的好奇心を高められるように工夫されている。 ○巻頭「みんなで算数をはじめよう！」では、問題解決の楽しさを味わいながら算数学習の学び方を身に付けられるように工夫されている。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○自ら未来を創出していくための力として、日常生活から算数の問題を見出し、「はてな（問題発見力）」「なるほど（問題解決力）」「だったら（問題追及力）」の三つの力を位置づけ、子どもの問いの連続を重視した授業の流れで、数学的活動を充実させ、主体的・対話的に深く学べるように工夫されている。 ○巻頭に「算数のミカタ」「いつも大切にしたい算数の考え方」が2年生以上に記載されており、全学年までの数学的な見方を繰り返し参照できるようにしている。 ○単元末「学んだことを使おう」及び学年末「算数を使って考えよう」では、学習したことを活用し、日常の事象を数理的にとらえて問題発見・解決する数学的活動を扱い、「何ができるようになったか」を実感できるように工夫されている。	
資料	○各学年 B5 版になっており、1年、5年、6年は一冊、3年、4年、5年は上下巻構成になっている。 ○紙の強度を維持しつつ、教科書用紙として最も軽量な紙を使用している。 ○資料は、日常生活からの内容に加え、現代的な諸課題として、環境、防災・安全、福祉、情報、伝統文化、数学史などを取り上げている。 ○「学びの手引き」では、算数用具の使い方や作図の仕方や数直線のかき方等がまとめられている。	
表記・表現	○各時間の問題は番号が付けられ、課題やめあては、囲みで強調されている。まとめはピンク色で強調されている。 ○文章表現が子どもにわかりやすく、全学年において読みやすい改行となっている。 ○色やフォントにユニバーサルデザイン（UD デジタル教科書体）を採用し、タブレットや電子黒板でもはっきり見えるように配慮されている	
総括	○児童自らが見出した問いを重視し、その問いを話し合いを通して解決し、更に新たな問いに向かうという「問いの連続」を意識できる構成になっている。 ○単元の前半で働かせた数学的な見方・考え方を「つながるミカタ」でおさえることで、後半は子ども自ら働かせて問題解決に向かうことができる構成になっている。 ○教科横断的に取り組める教材を掲載し、他教科と関連した場面を豊富に扱っていたり、幼少、小中の接続・連携を意識した教材を扱ったりしている。	

【算数 調査資料 1－5】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	わくわく算数	6 1 啓林館
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○デジタルコンテンツによる道具の使い方動画、新出用語の書き方動画が用意されており、知識・技能が身に付くように配慮されている。 ○単元ごとにある練習問題に加え、巻末「もっと練習」に補充問題や挑戦問題が用意されている。習熟度に応じて選択して取り組むことができるように工夫されている。 ○単元ごとの「学びのまとめ」では、問題の右側にどこで学習したかを示し、ふり返れるように工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○自力解決の場面や伝え合う場面で、図や表を活用できるようにするために、図・表のかき方を系統的に取り上げている。 ○巻頭で、算数で使いたい考え方を、図・演繹・類推・帰納・統合・発展の 6 項目にまとめ、既習事項を例に紹介している。 ○巻末では「学びをつなげよう」を設定し、これまでに学習してきた見方・考え方を示している。既習事項を児童がいつでも確認できるように工夫されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○日常の事象や既習内容をベースに主問題が設定されており、児童が目的をもって主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○「学びのまとめ」は、習熟度や興味・関心に応じてふり返ったり、発展的に考えたりできる題材を配置している。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○「算数ポケット」では、算数と関連した身近な話題や、学習したことから発展させて考えられる題材を盛り込み、数学的活動のよさに気付くよう設定されている。 ○説明する場面や話し合いの場面では、わかったことを表現したり、よりよい方法を考えたりする活動を取り入れ、対話的に学習が進められるように工夫されている。自分と異なる意見や立場も尊重できるような視点を、巻頭「算数の学習の進め方」で示している。	
資料	○1 年の入門期にはスタートカリキュラム用の別冊「すたあと ぶっく」が用意され、A 4 版中綴じ製本で、書き込めたりブロックを置いての操作がしやすかったりする工夫がされている。5・6 年では年間 1 冊の合冊とされ、中学校への学習形態へ慣れるよう配慮がされている。幼保小、小中の接続を重視している。 ○資料は、環境保全、健康食育、防災など、今日的话题を取り上げており、身近な事象と算数の関連を実感できるつくりになっている。 ○解説動画「スマートレクチャー」がすべての問題についており、オンライン授業でも活用できたり、学び直しに活用できたり学びの保障がされている。 ○2 次元コードの種類を「動かす」「動画」「解説動画」「問題」「スライド」「その他」と分類して示し、1 6 1 4 コンテンツ示されている。	
表記・表現	○文章の改行位置が、意味の区切りで行われており、読みやすい。 ○字体は UD フォントを使用しており、読みやすい。文字の大きさも児童の発達段階に応じて大小を変化させており配慮がされている。 ○紙面が文字でいっぱいになることはなく、写真や挿絵などを有効に活用し、書き込みスペース等余白が確保されており、視覚的に内容を捉えやすい。	
総括	○これまでの学習との繋がりに気付かせるために「めばえ」を設定し、本時の「めあて」につなげていく工夫がされている。学びのつながりに重点をおいたつくりにより、主体的・対話的で深い学びができるように工夫されている。 ○数量関係を捉えたり、演算決定するためのツールとしたりする数直線が、系統的に扱われており、かき方が本文や巻末に掲載されいつでも確認できる。	

【算数 調査資料 1－6】 第 14 探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学算数	1 1 6 日 文
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○「しっかりチェック」では、基礎的・基本的な知識及び技能の定着に向けて問題が設定されている。また、「わかっているかな？」では、全国学力・学習状況調査などの結果をもとに、子どもたちがつまづきやすい内容を取り上げたり、「たしかめよう」では、単元全体の内容をふり返れるようにしたりしている。 ○「次の学習のために」では、単元前に既習事項を確かめ、「〇〇までに学習したこと」（巻末）では、既習の学習内容を確認する場を設けている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「算数ノートをつくろう」では、筋道を立てて考える力や表現力を育てるために、考えた過程や友だちの考えなどをかき示したノート見本を掲載し、学習をふり返れる整理されたノートづくりができるようにしている。 ○「自分で みんなで」では、教室での学習場面を模した紙面構成で、子どもたちが考え、話し合い、結果を導き出すまでを表現している。また、各ページの側注で「何に注目し、どのように考えていけばよいか」を示し、子どもたちの思考力、判断力、表現力等の育成をサポートしている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「単元アプローチ」では、子どもたちの興味や好奇心に働きかけるような題材を用意した。 ○巻末の「算数マイトライ」では、子ども一人ひとりの実態に応じて柔軟に取り扱うことができ、習熟度別指導などでも活用できるようにされ、指導の個別化・学習の個性化が図られている。 〈数学的活動を充実させるための工夫〉 ○「使ってみよう」では、学習したことを生活の場面にかし、算数の楽しさや意義を実感できるように、数学的活動の参考となるページを充実させている。写真や準備するもの、手順などから、数学的活動を具体的にイメージできるようにしている。 ○「算数ジャンプ」では、算数で学習した単元や領域だけでなく、他教科や日常生活とも結びつけた総合的な算数の問題を取り上げている。他教科の学習とつなげて、学びをいかす力や姿勢を育てようとしている。	
資料	○5, 6年では、既習事項をふり返りやすく、1年間を見通した学習ができるように、1年間1冊の合本構成となっており、高学年での教科担任制をふまえスピン（教科書初採用）がついている。 ○2次元コード上部には、「ヒントと答え」「練習」など見出しがついている。「練習」のコンテンツは、学習した「計算の型」にくり返し取り組める練習問題となっており、正誤判定機能も付いている。 ○プログラミング的思考を育むためのページが全学年に設けられ、段階的に学習できる。 ○人権上の配慮、SDGs、情報リテラシー、防災・安全教育、伝統・文化についての題材が取り上げられ、現代的な諸課題への取り組みがされている。	
表記・表現	○新しい用語や、記号、単位は太字で書かれ、読み方や書き順が記されている。 ○全時間に「めあて」と「まとめ」が表記され、学習内容が焦点化され、学習の流れがわかりやすくなっている。 ○各単元を、領域別に色分けし、学習の系統性を意識しやすくしている。	
総括	○切り取って使える「学び方ガイド」は、問題解決の過程「学び方の4ステップ」を確認できるようにし、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが実践できる構成になっている。 ○幼児期の活動と算数のつながりが絵本仕立てで描かれ、幼保小連携の工夫がされている。 ○図を使って考える学習が苦手な子どもたちのために、図や式、ことばの関連、テープ図や数直線図のよみ方・かき方を系統的に整理して、図を使いこなせるようにしている。	

【理科 調査資料 1-1】 第 14 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい理科	2 東書
内容	<知識及び技能が習得でされるようにするための工夫> ○QR コードにより、導入段階で単元の内容に関する動画や、実験の仕方、理科ノートの活用などを確認することができる。 ○単元末には学んだ内容をまとめ、調べてきたことや、各節の「まとめ」の内容が把握できるようにしてあり、他教科との関連の記載がある。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決の力を重点的に育成する場面をマークで強調して示し、児童が深く考え、他者と対話することを通して育成することができるようにしている。 ○単元末には、各学年で重点的に育成すべき問題解決の力を確認する問題を設け、その育成状況を見取ることができるようにしてある。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○児童が理科と出合う巻頭ページでは、ダイナミックな写真と簡潔なメッセージで、児童を理科の世界に引き込んだり、QR コードからは、理科を学ぶ期待感を高めるアニメーション動画を視聴できたりし、児童の興味・関心と学ぶ意欲を引き出し、主体的に問題解決しようとする態度を育めるようになっている。 ○児童の興味・関心をかきたてる質の高い写真、イラスト、読み物等の資料を多く取り上げ、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度が養われるようにしている。 <見通しをもって観察、実験を行うための工夫> ○全学年に渡り、巻末に「理科の調べ方を身につけよう」としてノートの書き方、発表の仕方、話し合いの仕方、ICT活用等がまとめられており、必要に応じてすぐに確認できるようになっている。 ○単元冒頭に、これまでの学年で学習した関連のある単元について「思い出そう」というコーナーを設け、写真、問いかけとともに、QR コードにもリンクさせて確認できるようになっている。3年生では、生活科のコンテンツにリンクし、確認できるようにしている。 ○観察・実験のページにはQR コードが表示され、「やり方」の動画を見て確認したり、観察・実験の結果をかき込めたりできる「デジタルワークシート」などを活用できるようにしてある。 <自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫> ○キャラクターのセリフなどで、思考や表現の例を示し、意識的に理科の見方、考え方を働かせながら思考できるようにしてある。 ○児童が自ら観察・実験の結果を根拠に考察しながら問題を解決できるようにするために、「観察・実験」と「結果」は同じ見開きに示さないようページが構成されている。	
資料	○あたたかさ生き物との関係に関する学習や、流れる水のはたらきについての学習では、QR コードから全都道府県の自然の様子や、河川の上流から下流までの様子を見ることができ、地域に応じた学習や、他地域の様子等との比較など、発展的な学習にも対応できるようになっている。 ○災害等に関して写真が多く提示されており、備える・生命を守る行動まで項目が設定されていて災害に対する意識が高まるようになっている。	
表記・表現	○理科の用語については上位学年で学習する漢字であっても特別に振り仮名をつけて使用しているものがある。 ○多色の使用を控え、全体の色調を緑とオレンジで統一し、児童が落ち着いて学ぶことができるように配慮されている。 ○野外観察を行う場面をはじめとして、安全な観察・実験を行うための配慮が必要な場面では、「きけんマーク」を付け、禁止事項とその理由が赤字で強調して示されている。	
総括	○QR コード内のコンテンツが豊富で、生活科で学習した内容や、算数で学習した単位のページにもリンクさせている。 ○掲載されている実験器具は概ねどの学校でもこれまで使用してきたものが用いられている。	

【理科 調査資料 1－2】 第 1 4 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしい理科	4 大日本図書
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○各単元の学習内容が理解できているか確かめることができる「確かめよう」、学んでわかったことやできるようになったこと、工夫したこと、これからの学習や生活に生かしたいことを整理して表現する「ふり返ろう」を単元末に設定し、基礎的・基本的知識や技能の定着を図ったり、自身の学びや変容を自覚したりできるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各学年で主に育成する問題解決の力を中心とした「理科の学び方」を巻頭に設定したり、考察の過程に「6年では、特にココ！」と印を付けて強調したりと、重点的に育成を図ることができるようにしている。 ○観察や実験の結果等の書き方、例が豊富に示され、児童の自由な発想や表現を引き出すための参考となるようにしている。また、児童が記録や整理をする際の基礎が学べるように配慮している。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○主たる活動の後に「深めよう」や、単元末「学んだことを生かそう」、資料「りかのたまてばこ」「サイエンスワールド（発展）」、巻末「チャレンジ問題」などを通して、学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめ、理科を学ぶことの意義や有用性を認識しようとする態度が育まれるようにしている。 ＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞ ○身近な現象を提示するとともに、キャラクターの吹き出しを活用し、導入段階で児童自ら「理科の見方・考え方」を働かせながら問題を見いだすことで、見通しをもって問題解決の活動ができるようにしている。 ○各単元や学習テーマごとの問題解決の過程においては、予想や仮説を設定する活動と、観察、実験などの結果を振り返る活動を意図的に取り上げることで、学習の結果を見通したり、結果から課題・問題と結論を一貫して見通したりできるように配慮している。 ＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞ ○問題解決の過程を「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」に分けて構成しており、その活動を繰り返し行うことで、問題解決の力を養うことができるようにしている。観察・実験では、児童が結果を根拠に考察し、問題を解決できるようにするために、「観察・実験」と「結果」は同じ見開きに示さないよう、ページ構成が工夫されている。	
資料	○観察・実験の方法等は、ページ下の QR コードから読み取ることができ、QR コード内のコンテンツ内容も併記されているため学習で活用しやすい配慮がある。 ○コンテンツ内容では実験結果も確認できるようになっており、児童が必要に応じて学習に活かすことができるように配慮されている。 ○掲載されている写真は、学習意欲を喚起できるように、直接見ることの難しい自然の姿や、日常生活でよく目にする身近なものが掲載されている。	
表記・表現	○問題解決の過程を「見つけよう（緑）」、「調べよう（橙）」、「伝えよう（青）」の3色のラインでつなぎ、問題解決の過程のどこに当たるかを分かりやすく示している。 ○全体のレイアウトを一貫して統一的な表現にしている。 ○安全について十分配慮し、「注意」マークやイラストで注意を促している。注意する理由も示して児童がそれを認識しながら安全に取り組めるように配慮されている。	
総括	○QR コード内のコンテンツ内容がコードの横に書かれており、学習の中で児童が活用しやすくなるよう配慮されている。 ○実験結果を QR コードで確認することができ、個別の学びを支援している。 ○QR コード数は他者のコード数を大きく上回り、全学年の QR コードコンテンツに飛ぶことができる。	

【理科 調査資料 1－3】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	みんなと学ぶ 新しい理科	1 1 学 図
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○学習に入る前の「思い出そう」では、これまでどんな見方をしてきたかや、知識・技能等について振り返ることができるようにされている。巻末「考えよう調べよう」では、「伝える・聞く」「記録する」「調べる」等、学習に必要な技能についても記載されており、児童が随時確認できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○ものづくりや身の回りの事象などについて、相手を意識した説明活動が行えるように示している。また、思考力、判断力、表現力等に関する記載は、各学年で「特につけたい力」として示し、どのようにして力をつければよいかレベルアップのコツが明記されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元の終末にもものづくりの項目を設けて試行錯誤する過程を通して、単元の学習をもう一度振り返ることができるよう設定されている。 ○単元の中だけで学習を完結させず、もっと知りたいことをもとに、自ら解決する児童に育つよう、自由研究のページを充実させている。 ＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞ ○各学年、巻頭で働かせる見方・考え方及び育成すべき資質能力が「理科モンスター」として明記されており、当該学年でどのような力をつければよいか児童・教師・保護者がそれぞれ確認しながら学習し、振り返りが行えるようになっている。 ＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞ ○基本とする学習展開の流れを設けて、この過程を繰り返すことに新しい課題や変化に対しても自ら問題を見出し、解決していく力が身につくよう配慮されている。 ○観察、実験では、結果からいえること（わかったこと）と、学習内容として獲得すべき科学的な言葉や一般化された知識を分けることで、問いと答えの整合性をもたせており、児童が自らの学びを生かして学習をまとめられるよう配慮されている。	
資料	○巻末では、大事な言葉・調べ方や使い方をまとめており、写真や資料も豊富である。 ○「理科モンスター」を設定し、いろいろな「見方・考え方」を使いながら問題解決を行い、その過程で育成を目指す「資質・能力」を示してある。 ○本文中や巻末の「考えよう調べよう」では、ICT をどのような場面で活用したらよいかの例が示されている。個々の記録や調べ学習をする際のヒントや、協働的な学びに生かせる活動の例なども紹介している。	
表記・表現	○どの児童にも見やすく分かりやすいレイアウト・表記・色の扱いとなっている。判別しづらい色づかいは避け、実験での試薬の色の变化などには色名が明記されている。 ○実験結果の写真は、比較しやすいよう並べて示す等、児童が見やすく分かりやすいレイアウトになっている。 ○冒険という設定で様々なキャラクターに理科で身につけさせたい力や学習の流れとなる言葉を当てはめている。 ○「振り返ろう」ではその単元の問題が出題されているとともに、理科モンスターの視点で学習の振り返りをするようになっている。	
総括	○観察・実験の方法、実験結果等は、QR コードからも確認できるようになっており、児童が必要に応じて学習に使えるように配慮されている。また、他教科との関連（算数）についても確認できるようになっている。	

【理科 調査資料１－４】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	未来をひらく小学理科	17 教育出版
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○単元のはじめに「学習のつながり」を設けて既習事項を振り返ることができ、「思い出そう」で細かく既習事項をふりかえることができる。 ○各単元末には、単元で学んだことを簡潔にまとめた「ふり返ろう」や児童が自分で習得の度合いを確認できる評価問題「確かめよう」が設けられており、児童が学習をふり返り、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるように配慮されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○全体にわたり、問題に対する予想や調べ方などについて自分の考えを伝え合う場面を重視し、言語活動の充実を目指した学習活動が行えるように配慮されている。また、表やグラフをもとに考えたり説明したりする場面を取り上げており、思考力・判断力・表現力が深められるように工夫されている。 ○各学年の巻頭には、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」を設け、「比べる」「関係づける」「見通す」「ふり返る」などを話型で示すなど、言語活動充実の工夫がみられる。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各学年の巻頭「学習の進め方」では、問題解決の過程を「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「観察・実験」「結果から考えよう」「結論」とわかりやすく示し、問題解決の力が確実に身につくように配慮している。 ○実生活・実社会と学習内容との関連を図るために、学習の内容と関連のある専門家からの「メッセージ」を掲載し、学習との関わりを意識できるように工夫されている。 ＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞ ○各学年の巻頭に、「学習の進め方」がわかりやすく示されており、以降の紙面も同様の表現で「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「観察・実験」「結果から考えよう」「結論」と展開させ、児童が見通しをもって学習を進められるように配慮されている。 ○実験に関しては、児童の予想や計画に基づいた観察・実験等を設定し、児童が問題意識をもって観察・実験等に取り組めるように配慮されている。 ＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞ ○話し合いの場面のイラストを用いて、対話的・協働的に問題解決できるように導いている。観察・実験では、によって得られた結果が、自分の予想と一致しなかった場合を丁寧に取り上げ、児童が自分の考えや調べ方を確認したり見直したりすることの大切さを実感できるように工夫されている。	
資料	○算数科で学習する内容について、「算数とのつながり」と明示しており、教科間の関連を図りやすいように工夫されている。 ○「資料」や科学読み物「科学のまど」等で、環境や災害等の今日的課題を取り上げており、総合的な学習の時間との関連が配慮されている。	
表記・表現	○学習上、重要な用語については、太字で強調し、目立つマーカ―処理をしている。 ○問題解決の過程を統一感あるマークで示し、それらをつなげてページ単位で上から下へ流れるようなデザインを施すことにより、学習の流れが見やすいようにレイアウトが工夫されている。 ○実物大や見開き表示等、ダイナミックなイラストや写真が豊富に掲載されている。	
総括	○タブレットやSDGs等と絡めた資料の提示がある。QRコンテンツは他者と比較すると少な目であるが、その分、写真や資料を多く掲載している。 ○観察・実験や「ものづくり」は、学校で確実に準備できるように、入手しやすく、身近で扱いやすい器具・材料で行える方法を採用している。さらに、他の器具や材料も適宜提示されており、学校の実態に合わせて取り組めるように配慮されている。	

【理科 調査資料 1－6】 第 14 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	わくわく理科	6 1 啓林館
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○単元導入で「思い出してみよう」を設置し、既習事項や日常経験を確認、共通理解したうえで、単元の学習を進めることができるようになっている。 ○単元末では、「新しく学習した言葉」をまとめ、理科用語の定着をはかっている。また「まとめノート」を設置し、単元内で学習した内容の定着をはかっている。 ○基本的な器具の使い方を丁寧に解説しており、巻末にも「器具の使い方」をまとめ、基本的な技能が習得できるようにしている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「問題をつかもう」や「予想・計画」、「結果から考えよう（考察しよう）」などの対話的・協働的な活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等が育まれるようにしている。 ○「WaCBT（ワクビット）」では、映像を見て端末上で問題に答える CBT コンテンツを体験することができ、読解力や情報活用能力の向上をはかっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○主体的・対話的で深い学びを実現できるように、「見つける」→「調べる」→「ふり返る」の学習過程で、問題解決の力が高まるようにしている。 ○単元末の「活用しよう」や「くらしとリンク」では、日常生活・社会で学びを生かし、理科を学ぶ意義や有用性が実感できるように工夫し、学ぶ意欲を高めている。 ○ダイナミックな自然写真や児童のいきいきとした活動写真、日常生活とつながる写真・資料で、児童の探究心を高め、主体的に学習に取り組めるようにしている。 ＜見通しをもって観察、実験を行うための工夫＞ ○問題解決の流れや、観察・実験の手順を丁寧に記述しており、見通しをもって観察・実験を行えるようにしている。さらに、写真やイラストを効果的に用いているため、児童が自ら進んで観察・実験が行えるよう、手順がわかりやすく示されている。 ＜自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するための工夫＞ ○学年毎に「理科の考え方をはたらかせよう」を設置し、科学者のメッセージや考え方を紹介するとともに、理科の考え方とはどのようなものかを例示している。 ○科学的な根拠をもとに、他者と協働しながら、結論をまとめていくことができるように、「考察しよう」を問題解決の過程の適所に設けている。また、3・4年では、「結果から考えよう」、5・6年では「考察しよう」と発達の段階に応じた育成ができるように配慮している。	
資料	○「発展」マークで、発展部分と本文部分とを区別し、児童の興味・関心に応じて単元の学習をさらに深めたり広げたりできる内容を、単元内の「理科の広場」や単元末の「活用しよう」、「つなげよう」で適宜扱っている。 ○協働的な学びをサポートする「インタラクティブコンテンツ（シミュレーション等）」、もっと知りたいにこたえる「資料系コンテンツ（動画、WEB リンク等）」、個別最適な学びをサポートする「学習系コンテンツ（補充問題、解説動画等）」など、多様なコンテンツを豊富に掲載している。	
表記・表現	○ユニバーサル・デザインの観点から、すべての児童が支障なく学習できるように配色・デザイン・表現等に配慮している。 ○3・4年と5・6年でフォントサイズを変えており、発達段階にも対応している。 ○観察・実験では、「注意」マークと注意文や、文字とアイコンを組み合わせた視覚的に分かりやすい「安全」マークで丁寧な注意喚起を行っている。	
総括	○QR コードを読み取ることで、フラッシュカード形式の補充問題が用意されている。各コンテンツからもくじに移ることができ、全コード一覧化されている。 ○「みんなで使う理科室」を4～6年に設置し、理科室でのルールやマナーを身につけ、器具や薬品の扱いに習熟できるようにしている。 ○教材・教具に関しては、全国的に育てやすく、都市部の小学校などで広い場所の確保が難しい場合でも栽培でき、かつ、各学年の学習の目的に適した教材を用いている。	

【生活科 調査資料１－１】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい 生活	2 東 書
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「やくそく」や下巻末「かつどうべんりちょう」などで、各学習活動に即した生活上必要な習慣や技能を身に付けられるように工夫されている。（上４１） ○「つながるひろがる」では、他教科の学習と円滑に接続できるように工夫されている。（下１５） ○様々な活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴などの関わりとの気づきの様子を児童の写真や挿絵、吹き出し、表現作品等で具体的に示している。（上７５） 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」など、気付いたことを基にした学習活動例が、キャラクターの台詞、写真や児童の吹き出し、表現作品等で豊富に示されている。（上３１） ○様々な学習活動例や交流活動例を、写真や挿絵、吹き出し、表現作品等で示されている。（上７０） ○児童の思いや願いを実現していくための教師の支援として、挿絵や吹き出し等の例が具体的に示されている。（上１８） 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○黒板の端に、授業の流れを示したボードを掲示し、すべての児童が見通しをもって活動ができるように工夫されている。（上４９） ○表現方法として、大きな大きな活動写真を掲示したり、種、野菜等を実物大の写真で示したり、導入がスムーズに図れるような児童のつぶやきなど、児童の学習意欲を喚起できるように工夫がされている。（上４４－４５） ○単元のまとめでは、学習過程を思い出しやすいように児童の作品や写真を掲示し、振り返り場면을例示している。（上４９） 〈具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫〉 ○季節ごとに、対象と直接関わる体験活動と、気付いたことを表現・交流する活動を一体的に扱い、学習効果を高めるよう工夫している。（上７０－７１） ○「学びを深めるコーナー」では、児童が気付いたことを表現したり関連づけたり、視点を変えて捉え直したりすることで児童の気づきの質を高められるように工夫している。（下１４－１５）	
資料	○「かんさつずかん」のページでは、観察カードの書き方、書く際の手立て、観察方法、気づきの視点等を具体的に例示している。（上３４－３５） ○上巻末「ほんとうのおおきさいきものずかん」では、紙面上に実物大の生き物を掲載したり、植物の成長を一目で分かるようにパノラマページにしたり、児童の気づきを高められるような工夫がされている。（上２８-３５）	
表記・表現	○文章は、文節で分かち書きされており、すべての児童の読みやすさに配慮されている。 ○インクルーシブ教育の視点から小単元名、本文、手洗いマーク、やくそくなど単元で同じ位置に配置し、すべての児童にとって分かりやすい表示となっている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○単元ごとに、育成を目指す資質・能力を「本文」と「マーク」で明示し、指導と評価の一体化を図っている。 ○児童との関わり方の資料や動画、板書例、発問例などを豊富に例示し、よりよい授業づくりができるような工夫がされている。	

【生活科 調査資料１－２】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新版 たのしいせいかつ	4 大日本
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○上・下巻末「がくしゅうどうぐばこ」、「Web がくしゅうどうぐばこ」には、児童が活動に即して基本的な知識や技能が学べるように工夫されている。（上１３０－１３１） ○様々な活動や体験を通して、人との接し方、学校や地域、家庭でできる生活習慣等が身に付けられるように配慮されている。（上２３） ○生活科の活動や体験が他教科との関連が深いところに関連がわかるマークを入れ工夫している。（上７） 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「せいかつことば」では、学習活動をする際の表現方法について例示し、児童の豊かな表現力の育成・表現活動の充実が図れるよう配慮されている。（上５３） ○「きらきらことば」では、友達との関わる際の言葉を紹介し、人との交流をより深めることができるように工夫している。（上２１） ○ペア同士での交流、グループでの話し合い活動、クラスでの話し合いの場面を取り上げ、個の学びを集団で共有し、深め合うことができるよう工夫されている。（上９６） 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「きもちマーク」を使って、入学後まもない児童にも活動内容の振り返りを行うことができ、達成感や成就感などを感じることができるよう工夫されている。（上３） ○学校で活動したことを家族に伝え、ともに活動するなど、生活科の学びを生活に生かすことができるように配慮している。（下４６） ○単元の活動後の振り返りから、児童の思いや願いをもとに次の活動へとつながる流れを意識して紙面を工夫している。（上２７） 〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉 ○導入の意欲づけとして効果的と思われるところには動画を入れることで、児童の興味関心を高めるよう工夫されている。（上カード） ○低学年として取り組めるSDGsを生活科の学習と結びつけ、学んだことが自分の生活に繋がっていることを理解し関心がもてるように工夫している。（下４９）	
資料	○「がくしゅうどうぐばこ」の中に「はなしかためいじん」「ききかためいじん」「話し合い名人」「はっぴょう名人」が設けられており、児童の言語能力が育まれるように配慮されている。（上３１・下１１６-１１９） ○Web コンテンツが充実している。教科書の内容を補足したり、保護者向けの文言も掲載されたり、家庭との連携を円滑に図れるようにしている。（上３３・６９）	
表記・表現	○見開き内に具体的な課題の提示や吹き出しを示すことで、活動の意図が分かりやすく、児童が課題意識を明確にもてるようになっている。（上１４-１５） ○紙面を見ると授業の活動内容が分かるような「本文」「課題文」を例示し、この単元で何の活動をすればよいのか分かりやすく示している。（下１０２-１０３）	
総括	○上下巻末に「がくしゅうどうぐばこ」として必要な知識及び技能、生活習慣が身に付けられるように配慮されている。 ○自分の思いを言語化する活動を発達段階に応じて、様々な方法で表現し、育成されるように工夫している。	

【生活科 調査資料 1－3】 第 1 4 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	しょうがっこう せいかつ	1 1 学 図
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「ものしりノート」と称したコーナーとページが配置されている。単元内の必要な場面で配置された「ものしりノート」により、学習活動において必要となる動作や作業の仕方、工作の方法等がわかりやすく説明されている。(上 34～35 下 88～89 等) ○児童の活動の様子がふんだんに扱われた写真が掲載されている。児童の表情と活動の様子が大きく写された写真によって、児童が主体的に学びやすく方向づけられている。(上 88 下 82～83 等) ○ふりかえり活動の充実を図った工夫がされている。「ふりかえろう」のページでは、これまでの学習内容を記録したカードを矢印でつなぎ、学習の順序をまとめることで、知識技能の確実な習得につながっている(下 72～73)。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「はっ見カード」の写真の掲載に工夫がされている。学習カードの書き方の手本となる写真が、学習の記録の仕方として、わかりやすく提示されている。カードの書き方がわかるだけでなく、学習成果に対する自己評価にもつながるように配慮されている。(上 116～117 下 56～57 等) ○キャラクターの挿絵とコメントに工夫がされている。授業での活動の深まりや、児童間の相互評価の促しにもつながっている。(上 84～85 下 68～69 等) ○学習活動の展開例につながる表記と写真の掲載に工夫がされている。学習活動の順序や取り組み方の例示とも言える表記の工夫と、児童の写真がふんだんに掲載されることにより、学習活動の際には、「何に(対象)」に対して、「どう活動すればよい(方法)」かが明確化され、今後の「学習の仕方」の例示となっている。(上 96～97 下 82～83) ・一例として……「作って あそぼう うごく おもちゃ」では、「うごかし方」を「なげて」「ころがして」「風で」「ゴムで」と視点を分けて、「何を 作ろうかな。」につなげて、児童に思考させ、判断を促して表現させる工夫がされている。(下 P. 82～) 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○教科書に登場するキャラクターの個性溢れる言動や関わり合いの工夫がされている。キャラクター同士の紙面上のやりとりにより、児童の学習活動を通した成長が意識付けられている。学習活動の展開に応じて、紙面上のキャラクターの子供たちが成長していく過程がわかりやすく描かれ、児童は共感しながら学習活動が展開されることが期待される。 ○自分自身を振り返り、子供の意欲を引き出し、単元の学習が終わった後も活動が広がるように構成されている。(上 74～75、76～77 下 56～57 等) ○「ものしりずかん」の設置が工夫されている。単元で扱われた学習活動に広がりをもたせ、学習への更なる好奇心の高揚につながる工夫がされている。・「なつの むし」(上 P. 69)・「あきのは」(上 P. 87)・「まちたんけん へん」(P. 35)・「野さい へん」(下 P. 43, 53) 〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉 ○他教科との関連をもたせる工夫がされている。・理科や体育との関連(下 P. 69)・算数や道徳との関連(上 P. 43)・図工や音楽との関連(上 P. 89)・社会や国語との関連(下 P. 27) ○「もっと〇〇したい」「もっとかがやきたい」のコーナーの工夫がされている。 児童の学習したことから気付いたことを活かし、発展的な具体的行動を促すように工夫されている。(各単元末)	
資料	○上下巻末の学び方図かんによって、学習単元に応じた学習活動で求められる力につながる具体的な行動の仕方が「学ぶ力をつけるためのわざ」として掲載されている。 ○「ものしりノート」によって、学習単元で求められる「学習対象に働きかけるポイント」や、「記録の書き方・描き方」がわかりやすく提示されている。	
表記・表現	○教科書の名前に「みんなと学ぶ」とあるように、教科書の全ページにわたり、4 人のキャラクターと、大きなカットの児童の活動写真が掲載されている。実際に授業で使う児童だけでなく、紙面上でもキャラクターと掲載写真の児童の活動とがつながり、学び合っているように感じられる紙面構成となっている。 ○単元毎に設定されている、授業ごとのリード文には、「子供の言葉」目線でのシンプルな表現で書かれている。児童の学習意欲の高揚につながる工夫が為されている。	
総括	○大きな写真のカット、個性豊かなオリジナルのキャラクターの挿絵、ゆとりのある紙面の割り付けにより、子供の思考の方向づけと、思考の整理につながる工夫が為されている。 ○「ものしりノート」「ものしり図かん」により、必要にして十分な知識や技能の内容を補い、多量な情報を整理して、児童に伝える工夫が為されている。	

【生活科 調査資料１－４】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	せいかつ	17 教 出
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「はっけんロード」と称した学習プロセスを活用し、学習過程の視覚化が為されている。単元で設定された児童の学習活動の展開と学習活動が「はっけんロード」を歩むオリジナルキャラクター「いぐら」と共に歩む形で表現されている。（上 30～31 下 26～27） ○「やくそく」「ひと」のコーナーがページの右側に配置され、学習活動ごとに必要とされる情報（知識及び技能）を整理されている。（上 43 下 59） ○各巻末「学びの ポケット」のページで、知識及び技能の学習内容がまとめられている。各単元では、「学びの ポケット」につながる項目 1～7 が明示されており、他の学習[国語、算数、音楽、図画工作、道徳、体育、特別活動]への広がりをもたせている。（上 117 下 109） 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「わくわくスイッチ」（各単元のとびら）が配置されている。学習活動を「はい／いいえ」の二択で個々に選択するなかで、展開例を示し、本単元で求められる具体的な学習内容や方法に気づけるように工夫されている。（上 11 下 55 等） ○「サイコロ」の表記により、各学習活動での効果的な「力」が明示されている。「きづく」「じぶんでできる」「かんがえる」「つたえる」「ちょうせんする」「じしんをもつ」の 6 つに類型化された「力」によって、児童の思考力、判断力、表現力を養う学習過程の効果的な「力」を明示している。（上 16 下 106 等） ○「なにを かんじたかな」（各単元末）ページでの振り返りの場が設定されている。学習した内容や活動を写真で振り返り、学んだ知識及び技能の整理を促すことで、児童の学びをより確実なものにしている。（上 70～71 下 14～15 等） 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「なにを かんじたかな」では「ぐんぐんはしご」が明記され、児童自らが学習した内容を振り返り、次時の活動につなげるきっかけを身近にとらえられるように工夫されている。（上 48～49 下 102～103） ○児童を取り巻く環境の多様性を大切に工夫がされている。各単元や学習活動において、様々な視点での多様性が大切に扱われている。特にインクルーシブ教育の視点では、支援を要する児童や外国籍の児童の写真も多く扱われている。（上 P. 10 等、下 P. 96 等） ○学習活動の広がりを持たせる工夫がされている。（上 18～19 下 86～87） 〈具体的な活動や体験を通して気づきの質を高めるための工夫〉 ○板書のイラストを活用することで、活動の様子が捉えやすくなり、さらには思考の整理にもつながり、児童の気づきの質を高める工夫が為されている。（上 14 下 64 等） ○学習カードの感想欄の「児童の望ましい気づきにつながる例文」が記載されている。児童の書き方のポイントになるだけでなく、教師の指導の要点にもつながる。（上 60 下 46 等）	
資料	○各単元の終末にある「〇〇の～方」の資料ページ、「もしも」コーナーでは、視覚化への工夫がされている。より広く、深い知識や技能につなげるための資料として「〇〇の～方」と題されたページや、気づきの観点の深化につなげる「もしも」の 1 ページが効果的に配置されている。（上 P. 38、39、下 P. 37、下 90～93） ○各巻末にある「学びの ポケット」では、レイアウトが工夫され、各単元で扱われた学習活動が「学びの ポケット」につながる項目 1～7 として明示している。「学びの ポケット」では、他の教科領域への広がりをもたせている。	
表記・表現	○上巻下巻二冊の表紙を並べると 1 つの大きな虹となり、シャボン玉風の球の中には、生活科での学習の様子が描かれている。「みんな なかよし」「なかよし ひろがれ」と、学習内容のつながりを意図する工夫がされている。 ○「わくわくスイッチ」により、単元で求められる児童の主体的な学びを進めるための学習意欲を高揚させ、今後の学習活動につなげている。	
総括	○子供たちと一緒に学習をしていくキャラクター「いぐら」と歩む「はっけんロード」を歩んでいくことで、生活科の学びを進めていくスタンスが明確に示されている。 ○「なにを かんじたかな」では、意図的かつ効率的に学習内容を振り返るための工夫が為されている。児童の振り返りがしやすい紙面構成となっている。	

【生活科 調査資料１－６】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	せいかつ たんけんたい	３８ 光 村
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○単元の導入ページは、児童が身近な対象について、自分との関わりで興味・関心を高められるよう、これまでの経験を想起し、活動の見通しがもてる問いかけが位置づけられていたり、身近な学習材の写真がダイナミックに配置されていたりするなどして、構成されている。 (上３２) ○「どうしてだろう なんてだろう」のコーナーで、着目させたいポイントやルールについてイラストを使って示されている。 (上６９) ○「きをつけよう」は、赤字で示され、生活上必要な習慣や技能が身につくように工夫されている。 (上１１) 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○思いや願いを実現する過程において、見付ける、比べる、たとえるなどの学習活動で分析的に考えたり、試す、見通す、工夫するなどの学習活動で創造的に考えたりしている児童の様子が表情豊かな写真や作例などで豊富に示されている。 分析的思考（上３４・３５） 創造的思考（上７０～７３） ○気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの多様な表現方法を用い、他者と伝え合ったり振り返ったりしている児童の交流活動が、随時に設けられている。 (上２４・２５ 下２０・２１) ○振り返りの工夫で、次の学びへ、日常へと学びがつながるように示されている。(上３５) 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○さまざまな価値観で考えたり学びを深めたりしている児童の姿が、ユニークな文章と絵で表現されており、多様な児童の存在を肯定し、児童一人一人が自分なりの思いや願いをもちながらも、協働的に学べるよう配慮されている。 (上２３・２７ 下２１・５１) ○単元末の振り返りページでは、まず対話の中で活動を振り返り、次に多様な表現活動で自分の気持ちをまとめることによって、自分の成長を実感し、今後も意欲や自信をもってよりよい生活を送ろうとする態度を養うことができるように工夫されている。 (上２８・４１) ○全小単元に「ふりかえろう」コーナーが設けられ、内容のまとまりごとに児童自らが「情意面」と「資質・能力の面」から捉え直すことで、自身の学びや変容を自覚できるよう、工夫されている。 (上２３・２５) 〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉 ○単元末の振り返りページでは、まず対話の中で振り返ることで獲得した学びを言語化し、次に個人で単元全体を振り返り、まとめることで、気付きを自覚したり、関連付けたり、捉え直したりなどしている児童の姿が具体的に示されている。 (上５０・６２) ○六角形の枠で囲まれた、学び方の「ヒント」においても適切に提示されており、児童が学習を進める上での手立てとなるよう、工夫されている (上４４・４８)	
資料	○別冊「ひろがる せいかつ じてん」では、それぞれについて詳細に解説されており、児童自身で適切な表現方法を選択できるように配慮されている。 ○紙面に付いているＱＲコードをタブレット等で読み取ることで、安全面、衛生面に関する習慣や、技能の動画を、いつでも確認することができる。	
表記・表現	○低学年児童の発達段階を考慮した平易な表現であると同時に、正確さにおいても十分な配慮がなされている。 ○国語科の指導に配慮し、上巻の夏休み前までは平仮名のみで、夏休み以降は片仮名と、第一学年の配当漢字が振り仮名付きで使用されている。	
総括	○全単元において、導入、展開、振り返りで構成されており、それぞれ学習の見通し、体験活動の例、気づきの高まりの例として、児童の自己決定による体験と、主体的な表現活動が具体的に示されている。 ○小単元ごとの目標に対応した振り返りの場、「ふりかえろう」のコーナーが設けられ、学習活動を通してどんな気付きがあったか、児童自身が「情意」と「資質・能力」の両面から捉え直すことができ、自ら学習対象について次への思いや願いを考えられるよう、構成されている。	

【生活科 調査資料１－７】 第１４探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	せいかつ	6 1 啓林館
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○「こんなときどうしよう」や「学びのヒント」コーナーなどで、基本的な生活習慣や生活技能、健康や安全に関する知識が着実に身に付くように工夫されている（上 7 下 1 7） ○「びっくりずかん（ビジュアル図鑑）」や「デジタルたんけんブック（QR コンテンツ）」には、児童の知的好奇心や探究心を喚起する多様な資料が掲載されている。（上 1 8・1 9） ○「がくしゅうずかん（巻末資料）」には、調べ方、記録の仕方・まとめ方、道具や用具の使い方、安全上の注意などが示されており、基本的な知識及び技能や学び方が身に付くように工夫されている。（上 1 1 8 下 1 1 0） 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の３段階で構成され、思いや願いの実現に向けて繰り返し考えたり表現したりしながら、学びを深めていけるように工夫されている。（上 4 6 1 2） ○見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなどの気付いたことをもとに考えるための多様な学習活動の例が豊富に示されている。（上 7 4） ○言葉、絵、動作、劇化、ＩＣＴ活用など、多様な表現活動や交流活動が掲載されており、思考を深め、豊かな表現力が身に付くようになっている。（下 2 4・2 5） 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「できるかな できたかな」コーナーでは、学習を振り返り、自らの成長や学びの深まりを実感することで、満足感・成就感などの手応えを感じ、次の活動への安定的で持続的な意欲が育まれるように工夫されている。（上 1 3 下 9） ○「ひろがるきもち」コーナーでは、生活科での学びが日常生活に広がり、児童が自立し生活を豊かにしようとする姿が具体的に示されている。（上 1 3 下 9） ○下巻巻末の「ステップブック～みらいにむかって～」では、２年間の生活科を振り返る活動を通して、自信と意欲をもって３年生に進級できるように工夫されている。（下小寸 1～7） 〈具体的な活動や体験を通して気付きの質を高めるための工夫〉 ○教師の言葉がけや立ち振る舞い、学習環境（ＩＣＴ活用、板書活用、机のレイアウトを含む場の設定）の例が、具体的に示されている。（上 4 6 下 1 2） ○対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面が設定されており、深い学びにつながり、児童の考える場面が丁寧に示されている。（上 3 2 下 6）	
資料	○幼児教育施設職員・小学校教員で共同作成されたスタートカリキュラムに関する「すたあとぶっく～がっこう だいすき いちねんせい～」により、双方の視点から学びや育ちを丁寧ににつなぐ資料になっている。（上小寸 1～1 6） ○環境問題や食糧問題など、地球の問題を自分ごととして捉えるきっかけとなるよう、SDGs に関する資料が掲載されている。また「わくわく SDGs」が QR コンテンツとして用意されている。（下 1 1 4）	
表記・表現	○分かち書きされており、低学年児童も読みやすいように工夫されている。 ○色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判断しやすい配色・デザインが用いられている。	
総括	○「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の３段階の構成など、身近な生活に関わる見方・考え方を十分に生かすことで、主体的・対話的で深い学びを通して、幅広い知識と教養を身に付けられるように配慮されている。 ○「びっくりずかん」や「がくしゅうずかん」「デジタルたんけんブック（QR コンテンツ）」などの豊富な資料により、自分の思いや願いに合わせて学びを広げたり、深めたりできるようになっており、創造性を培い、自主および自立の精神を養うことができるようになっている。	

【音楽科調査資料 1 - 1】 第 1 4 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	音楽のおくりもの	1 7 教 出
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○系統性のある題材の配列がされているため、曲想と音楽の構造などの関りについて理解しやすく、表したい音楽表現をするために必要な技能が無理なく身につくように、指導のねらいに即し教材が適切に配置されている。 ○楽器の演奏や歌唱方法などがわかりやすく明記されている。また、器楽の教材については、低学年で使用する鍵盤ハーモニカを実物大で掲載し、教科書でも実際の鍵盤と同じように演奏できる工夫や、リコーダーについては、運指などを動画で確認することができるように工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○「まなびナビ」では、児童の気付きや思いを引き出すような問いの例を示し、児童同士で話し合ったり共有したりして、深い学びへとつなげられるような工夫がされている。 ○児童が「音楽を形づくっている要素」の働きをもとに、音楽をとらえて魅力を感じ取ったり、思いや意図を生かした演奏のための技能を身に付けるような教材の選択や扱いに配慮されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 ○「学習マップ」「学習の進め方」では、1年間の学習の見通しを持ち、各題材で学習する内容がわかりやすく示されている。また、『「音楽のもと」まとめ』では音楽を形づくっている要素や音楽を表すいろいろな言葉がまとめられており、児童が主体的に学習に臨むことができるように工夫されている。 〈生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉 ○日本の伝統芸能や民謡、各地のお祭りの音楽などが豊富に掲載され、実際に歌ったり太鼓の口唱歌を唱えたりする活動も盛り込まれており、演奏や曲の特徴などに気づきながら親しむことができるように工夫されている。 ○身の回りで見付けた音を生かした音遊びや即興的に表現することを音楽づくりの活動につなげられるよう、全学年「音のスケッチ」として系統的に各学年の発達の段階に配慮した学習内容で工夫されている。	
資料	○歌詞の内容を生かした写真が充実（折込を使ったワイドな紙面）しており、児童がイメージを膨らませ、自ら学習に向かえるように工夫されている。 ○「まなびリンク」のマークを示し、学習に対応した動画等の資料が WEB 上に豊富に用意され、児童の興味・関心に即して主体的に学べるように工夫されている。 ○<Short Time Learning> のコーナーでは、他教科（国語・算数・理科）と関連する活動や歌を通して外国語に親しむ活動を取り入れ、教科横断的な扱いができるよう配慮されている。	
表記・表現	○発達段階に合わせて、楽譜の大きさや低学年用の図譜、使用する言葉等が配慮されている。 ○児童の生活や心情に即した教材を取り上げ、写真・学習に関連した WEB 上の資料を効果的に用いて、児童の主体的な学びを引き出すよう配慮されている ○巻末折込にリコーダーの運指図や各種資料が配置され、児童自身が随所で確かめながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
総括	○歌唱共通教材については、学習内容に即し題材中で扱われているほか、歌詞から想像される季節感や情景を重視した扱いができるように工夫されている。また、縦書きの歌詞を別記し、難しい語句には注釈を加えて、歌詞を味わうことができるよう配慮されている。さらに、作品の著作者が紹介され、著作者を尊重する態度を育むような配慮がされている。 ○特別支援教育の視点に立った配慮や、色覚等への特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト（カラーユニバーサルデザイン）、表現方法、文字（ユニバーサルフォント）の使用など、細部にわたり配慮されている。 ○SDGs について音楽を通して何ができるかを考えるページが設定されている。	

【音楽科調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学生の音楽	27 教 芸
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○曲想と音楽の構造との関わりについての気付きや理解を促す内容の吹き出しが適切に配置され、児童にとって学習目標や学習活動との結び付きが分かりやすいものとなっている。 ○歌唱では、「歌声ルーム」のコーナーで、曲想にふさわしい声の出し方等、表現と技能が一体化するように、その曲に必要な技能が示されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○児童の作品例やグループ活動時の会話を想定した吹き出しが例示されるなど、児童が表現に対して思いや意図をもったり、音楽や演奏のよさを味わいながら聴いたりするために必要な情報が適切に示されている。 ○「見つける」「考える」「歌う、演奏する、つくる」のアイコンが示され、児童が思いや意図をもって表現や鑑賞の学習を進められるように工夫されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○1年間の学習の見通しをもつことができる「学習マップ」のページや、年間の学習を振り返ることができる「ふり返りのページ」が設けられ、児童がこの題材で「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認し、主体的にこれからの学習につなげられるように工夫されている。 ○児童が音楽科の学習で得た音楽経験や知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す教材や特集が掲載されている。 〈生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫〉 ○身の回りで見つけた音を音楽づくりの活動と関連づける活動が全学年「音楽づくり」として取り入れられ、音がもつ働きや役割、生活を豊かにすることへの気付きにつなげる写真やコラムの記載など工夫されている。 ○地域のお祭りや音楽に親しみを感じながら興味関心をもって学習できるよう、体験型の鑑賞学習を取り入れた内容を記載したり、調べ学習の観点や方法を写真や絵で示したりするなど工夫がされている。また、演奏者からのワンポイントアドバイスが掲載されている。	
資料	○イラストや写真などの取り上げ方もアイディアにあふれ、児童の音楽的感覚の育成や知的理解、学習活動の一助となるように配慮されている。 ○聴き取ったり感じ取ったりしたことをもとに思考・判断し、理解したことを言葉や音楽で表現できるよう、表現教材及び鑑賞教材においては、譜例（絵譜）や挿絵を用いた説明などが充実しており、それらを活用することで、言語活動の充実が図られるように工夫されている。 ○QRコードが全ページについており、一人一台端末を利用した個別最適な学習ができるように工夫されている。	
表記・表現	○児童の発達段階に応じて楽譜や文字の大きさなどが配慮されている。 ○題材ごとに通し番号が振られ、インデックス（小口見出し）によって題材のまとまりが分かりやすく示されるなど、見通しをもって学習することができるように工夫されている。 ○「がくふマスター」に音符や休符、記号などがわかりやすく示されているほか、巻末にも掲載されている。	
総括	○共通教材については「こころのうた」として配置され、我が国の文化や自然環境の保護などの視点からコラムや写真などが用意されており、児童が知的好奇心や感受性を働かせながら歌うことができるように配慮されている。 ○児童が自身の表現に対してもった思いや意図を実現するために役立つ写真やコラムが、発達段階や学習の系統性を踏まえながら、適切に示されている。 ○文章や歌詞、楽譜などの近くにイラストや写真が配置される場合には、学習上必要な情報に確実に注目することができるよう、シンプルなデザインとなっており、学習障害のある児童への配慮が行き届いている。 ○視覚的な情報を一度にたくさん処理することが困難な児童への配慮として、イラストの色調が工夫され、白を基調とするすっきりとしたデザインとなっている。	

書名 項目	図画工作	9 開隆堂
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○抽象的な『形・色』から自分なりのイメージを膨らませる題材を設定して、造形的な特徴の理解ができるようになっている。 ○巻末や各題材ページで、技能について『各用具ごと』に分類され、安全な使い方や片付け方まで丁寧に説明されている。また定規やコンパスを用いた題材設定など、多様な用具が使用できるようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○活動場面の紹介を画像として多く取り入れ、製作の順序などを考えながら、見通しをもって計画的に表現できるよう工夫されている。 ○活動が発達段階に対して適切で、困難度があまり高くなく、取り組みやすい題材を工夫し、全ての児童が楽しく思考・判断・表現できるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○身近な入手しやすい材料を使う題材が多く、イラストで紹介されているため家族と相談しながら楽しく材料集めができるとともに、片付けの仕方も説明しており、最後まで主体的に学習に取り組むことができる。 ＜表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫＞ ○児童の表現活動と美術作品を鑑賞する題材が連続したページで掲載されており、より表現と鑑賞を関連づけて学習できる工夫がされている。 ○活発に言語活動ができるよう、自分の思いを言葉にするための発問や、友達と活動する様子を写真と吹き出しで示す工夫がされている。 ＜用具の安全な取扱いについて指導するための工夫＞ ○「用具や材料を知ろう」コーナーや題材の中で、写真やイラストを用い、用具の使い方がされているとともに、安全性についても「囲み」を設けて示されている。	
資 料	○QRコードを通して、キャラクターが用具の安全な使い方や作り方などの動画や多様な作品例を紹介したり、作品カードや振り返りシートなど授業で使えるワークシートをダウンロードして使用できたりする工夫がされている。 ○児童が活動している様子や、製作に取り組みやすい参考作品が掲載されており、全ての児童が意欲的に活動できるように工夫されている。	
表記・表現	○題材で育てたい資質・能力に沿った「学習のめあて」を3つのキャラクターを利用して明示し、特に大切なめあては赤で示して分かり易く工夫してある。 ○参考作品の写真に図版番号があり、授業において教師が指導しやすい工夫がされている。	
総 括	○全ての児童が楽しく十分満足できる活動ができるよう取り組みやすい『基礎・基本を重視』した題材構成になっている。 ○他教科との関連や、幼児期の「表現」の学習、中学校の美術との接続を意識した包括的な工夫がされており、作家や職人の紹介等、キャリア教育の視点も踏まえ、豊かな人間性が育成できるよう工夫されている。	

書名 項目	図画工作	116 日 文
内 容	＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○『言葉→形・色』という題材を設定して、造形的な特徴の理解ができるようになっている。 ○巻末や各題材ページで、「かく」「切る」等、『活動ごと』に用具や技法の説明がされており、児童が主体的に用具や技法を選択や発展させて活動ができるように工夫されている。また「描く」のではなく、消しゴムで「消す」ことで表現するなど、児童の興味を高める技法の紹介がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○参考作品をたくさん紹介し、それぞれのよいところをもとに、技法や材料なども自分で選択するなど、自分の発想がさらに高まるような工夫がされている。 ○抽象的な作品例と具体的な作品例がともに紹介され、また参考作品が特徴的で優れた作品が多く紹介されており、自分のイメージを広められると共に、よりよい作品を考えようという意欲が高められるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○作品を、実際に生活で用いる場面を想定して製作する題材や、自然の素材を取り入れたり、普段は扱わないような材料や用具を使ったりする題材が設定されており、意欲的に学習に取り組むことができる。 ＜表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実するための工夫＞ ○たくさんの作品が教科書やQRコードによる画像等で鑑賞できるようになっていると共に、身の回りの工芸品や材料のよさを様々な視点から改めて見直す視点が示されている。 ○友達の作品を見合う方法が紹介されており、各題材のタイトルの下に児童の対話を引き出す発問や、友達と活動する様子を、写真と吹き出しで示す工夫がされており、活発な言語活動ができるようになっている。 ＜用具の安全な取扱いについて指導するための工夫＞ ○「材料や用具の引き出し」コーナーや題材の中で、写真やイラストを使い用具の使い方が説明されているとともに、安全性についても「囲み」を設けて示されている。	
資 料	○QRコードを通して、用具の使い方や仕組み、発展的な技法などが動画で確認でき、活動の中で児童が自分で確かめながら学習を進めることができるよう工夫されている。 ○参考作品が美術的で、よりよい作品づくりを目指そうという興味・関心が高まるものが選択されており、また作品の見せ方や展示の仕方などの工夫も紹介されている。	
表記・表現	○「学習のめあて」は、3観点を5項目に細分化し、育てたい能力が明確に示されている。 ○「保護者の方へ」のコーナーを設け、教科の特性や作品の扱い等について、家庭と連携して学習できるように工夫されている。	
総 括	○小中9年間の学習指導要領を意識し、「よりよいもの」「より美しいもの」等の美術的要素を強調した『発展的な』活動ができる題材構成になっている。 ○普段の生活の中での造形や、地域の自然や伝統文化とのつながりを意識した場面が紹介されており、楽しく豊かな生活を創造する心が育てられるように工夫されている。	

【家庭 調査資料 1－1】 第 1 4 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい家庭	2 東京書籍
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○題材の中や巻末資料の「いつも確かめよう」では、日常生活に必要な基礎的な知識・技能をイラストや実寸大に近い写真で取り上げ、確実な習得に向けて、児童が自ら確かめられるように工夫されている。 ○小題材ごとに学習の「めあて」と呼応した「ふり返ろう」があり、学習をこまめにふり返り、学習内容が着実に身に付くように工夫されている。 ○各実習に「できたかな」「成長のふりかえり」の欄を設け、実習のポイントを自己評価し、学習内容の定着が図れたか確認できるように工夫されている。 ○学習・実習内容を基礎・基本から応用へと児童の発達段階に応じて系統的に配列し、より確実な技能の定着を図るように工夫されている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○題材は3つのステップを基本とし、問題解決的な学習の展開を図ることにより、思考力、判断力、表現力等が身に付くように工夫され、「生活の課題と実践」につなげることができるように配慮されている。 ○「調べよう」「考えよう」「話し合おう」等のコーナーを設け、様々な学習活動を通して児童の思考力、判断力、表現力等が育成されるように配慮されている。 ○題材のはじめには、「家庭科の窓」として生活の営みに係る見方・考え方の4つの視点を示し、生活の中から課題を発見しやすくし、課題解決に向けて学び合うことができるように工夫されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「ステップ」1～3の学習の流れに沿って、学びを深めるために必要な活動が掲載され、見通しをもって自ら学べるとともに学び合いの充実が図れるように工夫されている。 ○題材の初めに、大きな写真やイラスト、キャラクターによる問いかけが掲載され、生活の中から課題を見つけられるように工夫されている。 ○第5学年の初期段階に、SDG s に関するページを掲載することで、各学習の内容と SDG s の関連を意識して学習が進められるように工夫されている。 〈実践的、体験的な活動の工夫〉 ○「生活を変えるチャンス」があることで、これまでの学習をふり返ることで、新たな課題を見つけ、実践的・体験的な学習の充実が図られるように工夫されている。 ○学習活動が段階的に設定されており、最後のステップ3で学習を深めることで、自分の生活に生かせる実践例・活動例があり、実践的・体験的な活動ができるように配慮されている。	
資料	○「資料」「プロに聞く!」「日本の伝統」「日々の備え」「環境」「安全」「発展」など、発展的な内容や今日的な課題の資料を提示している。 ○QRコードにアクセスすることで、画像を見ながら学習できるページが設けられており、字幕があり分かりやすい。 ○衛生・安全についての資料は、巻頭の「いつも確かめよう」のコーナーに提示し、実習ごと・巻末には、基礎技能に関する資料を提示して、実習の場面で活用しやすい工夫がされている。 ○SDGs との関連を意識しながら学習を進められるように工夫されている。 ○「A 家族・家庭生活(4) 家族・家庭生活についての課題と実践」について具体的に、児童の言葉で評価・改善まで例示されており分かりやすい。 ○巻末資料が豊富に掲載されている。	
表記・表現	○「安全」「日本の伝統」「環境」等を示すマークの掲載や、他の題材や教科・学年の学習内容と関連する点には「関連」や「リンク」を付して、学習の見通しをもつ場面が設けられるように工夫されている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、罫線で区切りをしたり、字体の工夫をしたりして、様々な発達特性及び特別支援教育への配慮がされている。 ○学習を導くキャラクターを掲載し、児童の学習意欲を喚起して主体的な学習を促すように表現が工夫されている。 ○A 4 判になり見やすく、資料が豊富に掲載されている。 ○1～15のつめの部分は、目次とリンクして色分けされており、使いやすい工夫がされている。	
総括	(全体的な特徴・その他) ○題材が3のステップで構成されていて、学習を問題解決的に進められるように配慮されている。 ○思考を可視化することや他者と共有するなど、豊富なコンテンツを活用して学習を進めることができ、また、学習したことを生活に活かせるように工夫されている。 ○題材名の工夫や内容の関連を図った題材等、学習にストーリー性をもたせ、学びに向かう力、人間性等の育成について配慮されている。	

【家庭 調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	わたしたちの家庭科	9 開隆堂
内容	〈知識及び技能が習得でされるようにするための工夫〉 ○「なぜ○○なのだろう」など、題材の初めに児童への問いかけやフォトランゲージを掲載し、学習の見通しをもたせ、知識・技能の定着につながるように工夫がされている。 ○実習ごとに「できたかな」の欄を設け、知識及び技能についての自己評価や学習成果を確かめることができるように配慮されている。 ○実習の手順は写真とイラストを用いて段階ごとに示し、実際の活動をイメージしやすいように配慮されている。 ○日常生活に必要な基礎的な知識・技能を着実に身に付けるために、スモールステップで平易なものから段階的に実習を積み重ねられるように工夫がされている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○題材毎に、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで構成し、課題解決に向けて考えを表現することができるようになっている。 ○児童の思考力、判断力、表現力等を育成するための「考えよう」「調べよう」「話し合おう」などの小題材があり、学びを深めるための工夫がされている。 ○教科書への記述欄が増え、児童自身で表現する場を増やす工夫がされている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップで題材が構成され、見通しをもって自ら学べるように工夫がされている。 ○「レッツトライ生活の課題と実践」や「生活に生かそう」では、これまでの学習を振り返り、学んだことを生かして新たな課題を設定し、家庭や地域での実践的・体験的な活動を促す工夫がされている。 ○題材の導入では、大きな写真やイラストを提示して、問いかけの一文が加えられ、課題を見つけることができるように工夫されている。 〈実践的、体験的な活動の工夫〉 ○「生活の課題と実践」では、事例が多く掲載されていて、これまでの学習をフィードバックすることができ、実践的・体験的な学習の充実が図られるように工夫されている。 ○3つのステップで学習を進め、最後の「生かす・深める」では具体例を示し、学習したことを家庭でも実践・体験できるように配慮されている。	
資料	○QRコードにアクセスし、画像を見ながら学習できるページを設けている。基礎的な技能などの動画や実習・製作に関わる映像や資料・ワークシートなど、学習に役立つ資料が用意されている。 ○巻末には、材料・用具に関わる資料（写真）や、各種実験などの科学的な資料についても掲載されている。 ○「利き手はどちら？」の資料が掲載されていて、左利き児童へも実習・製作時に対応できるようになっている。 ○キャリアインタビューコーナーや中学校の家庭科の授業の様子の写真等の掲載があり、小中の接続や内容の系統性が分かり、将来への見通しにつながる工夫がされている。 ○豊富なデジタルコンテンツがある。	
表記・表現	○A4判で見やすく、学習の流れや実習の手順が分かりやすくなるように工夫されている。 ○「安全」「環境」「伝統」「発展」等、学びとの関連を示すマークが使われていて、取り組む視点が明確になっている。 ○ユニバーサルデザインの観点から、実習の流れを色分けしたり、字体や改行の工夫をしたりして、さまざまな発達特性に配慮されている。 ○つめの部分がA、B、Cの内容ごとに色分けされており、分かりやすい工夫がされている。 ○題材ごとにマークと色がついており、系統性が見てわかる工夫がされている。	
総括	（全体的な特徴・その他） ○題材毎に、見通しをもって課題解決型学習が進められるように「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3つのステップの構成になっている。 ○基礎的・基本的な内容の定着が図られるように、スモールステップで取り組んだり、多様なコンテンツを用意して目で見て確かめたりしながら、学習が進められるように工夫されている。 ○学習の流れや実習は、見開きページで構成されており、児童の学びやすさ、教師の指導のしやすさに配慮されている。	

【体育科（保健）調査資料１－１】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新しい保健	2 東書
内容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○毎時間、ステップ１～ステップ４で構成され、問題解決の過程が分かりやすく示されているため、基礎的、基本的な知識の習得できる工夫がされている。 ○ステップ４では、学習のまとめとして、穴埋めの形式で大切な部分の振り返りができ、基礎的・基本的な内容が習得できるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○毎時間ステップ２とステップ３を中心に思考、判断、表現しながら改題解決していく学習活動が設けられている。 ○考えを書く欄には、罫線が引かれていないため、個人に合った分量で書くことができる。また、書いたことから他者と伝え合えるような工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○毎時間、ステップ１で児童の気付きを引き出し、学習の課題を自分事として捉えられるように設定している。 ○学習の最後にスポーツ選手のインタビューなどが載っているため、興味や関心が高まる工夫がされている。 ＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞ ○単元に応じて、場面に合ったイラストや写真、グラフ、動画（ＱＲコード）を活用されている。 ○「まめちしき」やキャラクターの吹き出し等によって、学習を広げたり、深めたりする工夫がされている。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○けがの手当て、不安の対処法などの実技の部分が、イラストや文章だけでなく、動画（ＱＲコード）も掲載されているため、実践しやすい工夫がされている。 ○資料の中に「はってん」「スキル」「他教科との関わり」が掲載されており、小中学校の学習内容を系統的に指導できる工夫がされている。	
資料	○ＱＲコードの下に、どのような資料が見られるのか表示してあるため、活用しやすい工夫がされている。 ○資料ページは、文章だけでなくイラスト、写真、動画などが活用されていてわかりやすい工夫がされている。 ○資料が多く掲載されており、性の多様性やＳＤＧｓ、感染症など今日的課題も含まれており、学習を広げる工夫がされている。	
表記・表現	○学年の配当漢字（ふりがな）、文量や大きさ等、児童の発達に応じて考えられている。 ○基礎的、基本的な知識は本文で簡潔にまとめられており、特に大切な部分は太字となっている。	
総括	○ステップ１～ステップ４に分かれていて、問題解決の過程を分かりやすく工夫がされている。 ○課題解決的に学習を進める中で、基礎的・基本的な学習内容を理解できるような紙面の構成が工夫されている。 ○資料も多く記載されていて、性の多様性、ＳＤＧ’ｓ、感染症など今日的課題も含まれている。 ○写真や動画、イラストなどデジタルコンテンツが充実されており、視覚的に健康・安全についての理解を深める工夫がされている。	

【体育（保健）科調査資料１－２】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	たのしい保健	4 大日本図書
内容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○単元全体の構成が「つかもう」「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「活かそう」となっており、学習の流れが明確なため、基礎的・基本的な知識が習得できるように工夫されている。 ○主人公の男の子や女の子、キャラクターが吹き出しの形で語りかけを行っているため、自己の振り返りがしやすい。これに加え、「警察官」や「薬剤師」などがより専門的な知識を補う工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○「活かそう」では、各単元の記入欄が多く設けられており、学習したことを生活に活かす工夫がされている。 ○ミニ知識やワードの詳細説明が各ページにのせてあるため、考えが広がり、思考力を身に付けさせる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○毎時間、QRコードが記載してあり、学習ゲームやアンケートなど興味を引き出す工夫がされている。 ○単元の導入時に児童に身近な題材や活動を取り上げ、今後の生活についてふり返りながら取り組める工夫がされている。 ＜健康安全について理解を深めるための工夫＞ ○単元の最後には「まとめ」が設けられており、学習を振り返ったり、これからどのように生活したいかを考えたりする工夫がされている。 ○「もっと知りたい」では学習内容をさらに理解させるための参考資料が載せてある。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○様々な資料だけでなく、場面に応じたイラストを活用しているため、イメージがしやすい。 ○「はってん」として、資料が載せてあるため、今後の生活に活かしやすい。また、中学校保健で扱う学年も載せてある。	
資料	○QRコードを認証すると関係サイトにつながり、詳しい資料動画が流れる。 ○イラストと写真と分けてあり、イメージしやすいようになっている。 ○単元に応じて場面にあった、イラストや写真、グラフ等が活用されている。	
表記・表現	○単元のはじめに単元の流れが明確となっているため、見通しが立てやすい。 ○単元がある程度一連の流れになっているため、どの児童においても見通しが立てやすくなっている。	
総括	○資料や助言が多く記されているため、様々な知識と理解を育むことができる工夫がされている。 ○記入欄が多く設けられているため、1時間の考えの変化が見取りやすい工夫がされている。 ○学習の「まとめ」については、学習を振り返ったり、これからどのように生活したいかを考えたりする工夫がされている。 ○単元に合った内容を実践的に行う活動を通して、健康・安全についての理解を深める工夫がされている。	

【体育（保健）科調査資料１－３】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新小学校保健	50 大修館書店
内容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○単元全体の構成が「課題をつかもう」「課題解決」「まとめ」の３ステップとなっており、学習の流れが明確になっている工夫がされている。 ○専門的な知識を補ってくれている学習に見合った職業の方が登場し、基礎的・基本的な内容が習得できる工夫がされている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○学習したことを自己に置き換えられる設定があり、これからの生活に活かしたいことが記入できる工夫がされている。 ○各ページに「豆知識」や「もっと学びを広げよう！深めよう！」の資料が載せてあり、学習したことを深められる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○各ページにQRコードが記載してあり、保健クイズや資料を補う動画等、興味を引き出す工夫がされている。 ○単元の１ページ目に、オリンピック選手等のインタビューから始まり、親近感がわきやすい工夫がされている。 ＜健康安全について理解を深めるための工夫＞ ○単元の学習に見合った内容の４コマ漫画で説明するなどわかりやすい工夫がされている。 ○単元の最後に学んだ知識を記入する記入欄と思考を記入する記入欄があり、理解を深め実践するための工夫がされている。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○「体育の窓」のページがあったり、他教科との関連が記載してあったり、学習を活かしやすい工夫がされている。 ○「はってん」の中に、説明に加え、補足説明のページやサイトが載せてある。さらに小中学校の内容をつないで、指導できる工夫がされている。	
資料	○QRコードを認証すると関係サイトにつながったり、資料動画が流れたりし理解を深められる工夫がされている。 ○イラストでの説明と写真での説明に分かれており、イメージしやすい工夫がされている。 ○QRコードの保健クイズがあり、知識を広げたり、深い学びができたりする工夫がある。	
表記・表現	○単元のはじめに単元の流れが明確になっており、見通しが立てやすい工夫がされている。 ○字体のフォントが大きくユニバーサルデザインの視点をふまえている。重要な言葉も太字になっていて読みやすい工夫がされている。	
総括	○様々な資料だけでなく、補足説明も多いため、知識と理解とをバランスよく育むことができる構成になっている工夫がされている。 ○知識の記入欄と思考の記入欄がわかれているため、評価がしやすい工夫がされている。 ○QRコードも有効活用でき、思考を深められる工夫がされている。 ○「はってん」の中に、中学校の内容が記載されており、小中学校の内容を指導できる工夫がされている。	

【体育科（保健）調査資料１－４】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新わたしたちのほけん	207 文教社
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○単元を通じて緑色「Mission」でキーワードを学習し、赤色「もう一歩先の自分へ」で発展的な内容、また自分に生かすように構成されている。 ○知識を深めるために、男性教師のイラストが吹き出しで、理解する内容を示している。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○男の子や女の子が吹き出しで問いかけを行っているため、問いかけから思考を深めやすくなっている。またページの最下部に既習事項や普段の生活との関連を示している。 ○「もっと考えよう課」でさらに発展的（課題解決的）な指導が行えるようになっている。単元の最後には学年事に「〇〇宣言」と題し、今後の自分の課題を見直す機会を設けている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「Episode」と「もっと考えよう課」という項目があり、児童の興味関心に沿った情報が掲載されている。 ○児童の一日を具体的に画像で示してあったり、〇〇パークのように「よりよい発育」について児童が意欲的に考えたりしやすいように工夫が見られる。 ＜健康・安全についての理解を深めるための工夫＞ ○身近な場面を切り取り、児童が状況に応じて、どのように防止したらよいか思考しやすいように工夫されている。 ○けがの原因を調べる際に、原因が起こった時間を巻き戻してみるとわかるように時系列で記載されている。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○ライフセーバーが吹き出しで、「着衣水泳」の大切さを伝えていたり、身近な運動に取り組んだりできるように運動を紹介したりしている。 ○警察官・アスリートから、中学生になる児童に向けて大切なことを掲載している。	
資料	○喫煙の害では、タールの着色をより視覚的に写真入りで載せ、また喫煙することによるがんの死亡率、がんの種類を掲載しており、危険性をより具体的に示している。 ○体のはたらきの変化では射精や月経の仕組みを図入りで順番に説明している。 ○生活習慣病の予防では、食べ物の塩分量や脂肪の量まで書かれており、児童が具体的に理解しやすいように工夫されている。	
表記・表現	○それぞれのキャラクターが学習のポイントで児童に思考させるような、呼びかけをしており、それに応じて児童が考えたり、教師が発問したりすることができる。 ○単元の最後では学習内容と関係するSDGsの目標を記載している。	
総括	○どの単元も「Mission」内容を理解し、まとめ、「もう一歩先の自分へ」で自分に生かすように構成されているので、授業を行う際には、どの教師も同じ流れで学習することができる。 ○教科書に出てくるキャラクターが効果的に配置してあり、意欲を高めたり、思考を深めたりできるように掲載されている。 ○ページの最下段には、その単元に関わるミニ情報や既習事項を振り返らせるような工夫もしており効果的である。 ○児童の身近な場面を基にして記述したり、調べたりする活動を通して思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。	

【体育科（保健）調査資料１－５】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学保健	208 光文書院
内容	＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○単元全体の構成が「見つけよう」「考えよう」「調べよう」「話し合おう」「生かそう」となっており、学習の流れが明確なため、基礎的・基本的な知識が習得しやすくなっている。 ○児童の身近な場面から課題を捉え、知識及び技能が習得できるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各単元で自分自身を振り返る記入欄が設けられており、得た知識を活用しながらまとめられる。 ○「まとめ」で、今後の自分に生かす取り組みを考えさせる工夫がされている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○単元の導入時に４コマ漫画で興味を引き出す工夫がされている。 ○教師等の助言や資料の補足だけでなく、「特別インタビュー」や「発展」など様々な場面で深い知識を得ることができ、児童の興味関心に応じて主体的に取り組めるようになっている。 ＜健康安全について理解を深めるための工夫＞ ○単元に応じて場面にあった、イラストや写真、グラフ等を活用されている。また、その場面に対する記入欄が設けられているため、理解を深められるようになっている。 ○単元の最後に「生かそう」という欄が設けられているため、実践するに当たって得た知識の理解を深める工夫がされている。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○様々な資料だけでなく、イラストを活用しながら対応の仕方等掲載されているため、イメージができ、実践しやすい工夫がされている。 ○「さらに広げよう 深めよう」で発展的な内容に取り組み、生涯にわたって健康に過ごす力を育成するための工夫がされている。	
資料	○「心の健康」の単元では、「話し合おう」や「やってみよう」だけでなく、「広げよう・深めよう」、「人との接し方を考えよう」と多くの資料がある。また、実際にペアやグループで体を動かす事例が記されており、気分転換をするイメージがわきやすくなっている。 ○QRコードを認証すると関係サイトにつながり、さらに詳しく学習できる工夫がある。 ○オリンピック選手や流行のアニメの作者など知っているものの資料で指導がしやすい。	
表記・表現	○学習場面に即した内容を助言する男の子や女の子、教師がでてくるため、学習内容が理解しやすくなっている。 ○ページの最下段に豆知識や他教科との関連付けが図られている。	
総括	○資料や助言が多く記されているため、様々な知識と理解を育むことができる構成になっている。 ○主体的、対話的な学習を通して基礎・基本的な学習が深められるよう工夫されている。 ○学習のまとめについては、カラーでわかりやすくまとめられている。字体が見やすくなっており、その中でも重要な言葉については、太字になっているため、理解しやすくなっている。 ○単元最初の４コマ漫画やストーリー形式のイラストで学びを広げ、児童が興味・関心を持って学びに向かえるように工夫されている。	

【体育科（保健）調査資料１－６】 第１４採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新 みんなの保健	224 学 研
内容	＜知識及び技能が習得でされるようにするための工夫＞ ○単元の最後に総まとめ（振り返る・伝える・つなぐ）があり、知識の習得ができる。 ○単元を通して学びのサイクル（３ステップ）が同じになっており、基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるように工夫されている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○すべての単元に話し合う・説明するなどの活動があり、思考力、判断力、表現力等が身に付けられる。 ○各章の最後に学習を振り返るページが設けられており、学習をもとに「誰かに伝える・話してみたい」ことを記述できるように工夫されている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○子どもがわかりやすくイメージしやすいイラストがあって興味を引きやすい。 ○プチ情報が掲載されており、学習内容を補足する情報や他教科との関連が記載されている。 ＜健康・安全についての理解を深める工夫＞ ○単元の最後にもっと知りたい・調べたいといった補助資料があり、健康・安全についての理解を深める工夫がされている。 ○イラストを効果的に活用しており、児童の身近な場面が想定できるように工夫されている。 ＜生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力を育成するための工夫＞ ○中学校の内容を発展として掲載し、中学校への接続が図られている。 ○背表紙の裏に、次学年に向けた振り返りと今後に生かすための記入欄がある。	
資料	○「ほけんのはこ」や「もっと知りたい、調べたい」で、さらに詳しい内容を学習できるようにする工夫がされている。 ○イラスト、キャラクターの吹き出し等の資料により、児童が理解を深めることができるよう工夫されている。 ○ＱＲコードを読み取って、振り返りができるよう工夫されている。	
表記・表現	○文章がUD デジタル教科書体で統一されているため、様々な児童に配慮された表記になっている。 ○１単位時間の学習内容が見開き２ページでまとめられている。	
総括	○資料や記入欄が多く、事例について思考する時間、共有する時間、生かす時間を通して、思考力・判断力・表現力等を育成できるような工夫がされている。 ○主体的・対話的な学習を通して、基礎的、基本的な学習が深められる工夫がされている。 ○資料が多く児童が学習する際、思考の助けとなる工夫がされている。 ○キャリア教育や食育とのつながり、中学校へのつながりを意識した学習資料が記載されている。	

【外国語（英語） 調査資料 1－1】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	NEW HORIZON Elementary English Course	2 東書
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○内容に慣れ親しむ→内容の定着を図る→コミュニケーションを楽しむ→世界の文化を更に知るという流れで構成されており、スモールステップで基礎的な技能を身に付けられるようになっている。 ○具体的な言語の使用場面が示され、児童に活動の必然性が自然と伝わるよう工夫している。 ○日本語とのアクセントの違いや文字と音声を結びつけるフォニックスの視点が数多く取り入れられている。 ○Small Talk の内容が学習事項と関係のある内容を意識している。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○児童が言いたくなるような目的、場面、状況が設定されており、その中に自分なりのアイデアが入れられるよう工夫されている。 ○発表に対して気を付けることを書いたり、発表後に振り返りを書いたりする活動が設定されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○5 年用教科書では日本で生活する外国人から日本文化について紹介する場面があり、6 年生用教科書では同世代の外国人からその国の文化について紹介する場面があるなど、国際理解に関する児童の興味関心を高める工夫がなされている。 ○聞いたことや発表することだけでなく、単元に出てくる国について考えたことを書く活動が設定されている。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○映像教材により、学習事項を用いたコミュニケーションをイメージしやすい。 ○めあてに関わる会話をする場面で、実際に自分が使いたい単語が調べられるよう教科書とピクチャーディクショナリーの連携が適切になされている。	
資料	○デジタルマップなど、児童にとって調べ学習が進めやすいデジタル資料が充実している。 ○Let 's chants はアニメが親しみやすく、リズムが良い。 ○巻末資料にミシン目があり使用しやすい。（アルファベット・Enjoy Communication 用カード）すべてに名前を書くスペースがある。 ○教科書に書き込める箇所が多く、振り返り、会話時のワークシートなど教科書で完結できる。	
表記・表現	○UD 書体が使われている。左利きの子への配慮もある。 ○英語を書き写すところは 4 線が書かれていて、2 線目が点線、書く幅は大きめで児童が取り組みやすい。 ○アルファベットをなぞる部分はどのようになぞっていくのか矢印のような記号で示されており、児童が取り組みやすい。	
総括	（全体的な特徴・その他） 外国語を学ぶ意欲が高まるよう、異文化の魅力や日本と海外のつながりなどを感じさせる資料が豊富に用意されている。また、デジタル教材が多く用意されており、児童が調べ学習を進めやすいものとなっている。導入から発表の準備、振り返りまでの授業の流れがわかりやすい。	

【外国語（英語） 調査資料 1－2】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	Junior Sunshine	9 開隆堂
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○単元のゴールの設定・毎時のゴール・単元の達成規準が明確に示されている。また、その時間が単元の中で第何時の学習なのか、ページごとに記載されており、児童も教師もわかりやすい。 ○知識の習得のためにゲーム的な活動が用意されている。また、その活動を何のために行うのか目的が明記されている。 ○書く活動が 5，6 年の学習段階に応じてバランスよく設定されている。 ○英文を聞くときに文を指で追う指示など、音声と文字を結びつける工夫がある。 ○文の中に出てくる単語が絵で示されており、知らない単語があっても文構造から意味を理解できるようになっている。 ○年 3 回、テストとインタビューで学習事項が身に付いたか確認するページがある。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○場面設定の説明が具体的で、児童が自分で考える課題設定が多くある。 ○ペア・グループなど学習形態が示されている。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○児童の興味関心を高めるよう海外の文化についてまとめて紹介するページが多数ある他、SDGs の視点から資料が示されている。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○映像教材により、学習事項を用いたコミュニケーションをイメージしやすい。 ○活動ごとに評価の領域マークがついており、子供たちにとってもねらいがわかりやすい。 ○各単元が①英語をたくさん聞き、何度も使ってみる②音声で慣れ親しんだ英語と文字を結びつける。③手本や例文を見ながら書く、という構成になっており、音声から文字への学習が円滑につながるようになっている。 ○単元のまとめ方が、伝え合う、ポスターを作る、クイズを出すなど豊富で、様々な方法で話したり、聞いたり、書いたりする活動がある。	
資料	○教科書の色調が優しい。また、紙質もさらっとしており、鉛筆で書き込みやすい。 ○同じ内容の Word Book が 5 年時、6 年時の両方で配付される。 ○コミュニケーションに必要な語彙が教科書に多く示されており、会話によっては Word Book の確認が不要である。	
表記・表現	○UD 書体の活用や読みやすい位置での改行などの配慮がなされている。英語にはオリジナルフォントが使用され、やや太めの字体で見やすい。 ○QR コードが全てページ右上に配置されており、読み取りやすい。	
総括	（全体的な特徴・その他） 外国語を学ぶ意欲が高まるよう、異文化の魅力や日本と海外のつながりなどを感じさせる資料が用意されている。「聞く・話す・読む・書く」にバランスよく取り組める内容となっており、ゲーム等の活動を通して語彙や表現を習得できるよう工夫されている。示された活動に沿って学習を進めることで知識及び技能が習得できるよう工夫されている。	

【外国語（英語） 調査資料 1－3】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	Crown Jr.	15 三省堂
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○Unit が 5 年も 6 年も年間 3 つのみであり、学期ごとにゴールを意識することができる。 ○Unit の導入ページにその Unit 全体の流れが示され、到達目標を意識しやすい。また導入ページが 1 枚の絵になっており、その単元で使用する語句などを学べるようになっている。 ○Unit の構成が「思い描く、出会う、慣れ親しむ、伝え合う、表現する」となっており、段階的に学べるようになっている。 ○Fun Box（文字で遊ぼう）というコーナーは色々な問題のバリエーションがある。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○Unit の初めに、児童の発表動画を見ることができ、Goal の見通しが持てる。また、Goal の児童の発表動画にバリエーションが複数あり、自分が目指す姿を選びやすい。 ○イラストが大きく載っているページが各単元にあり、絵の中から選んで会話や文章に使いやすい。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○Let' s watch は問題場面が終わってもその後も会話が続く構成で、実際の場면을想像しやすい。 ○発表の形式として、動画を撮る、下級生に発表するなどのユニークなパターンがある。 ○会話の中にリアクションを示す言葉が多く用いられている。 ○Jump の発表の場面では、他者への配慮として気を付けるポイントが明示されている。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○聞く活動では聞き取ることに集中しやすいシンプルな課題が設定されている。文字が示されるのは第 2 時からとなっている。 ○(Let' s Watch Let' s Listen Let' s Speak Let' s Play Let' s Talk Let' s Read & Write) 見る、聞く、話す、話してみる、読んで書くを基本パターンとしてパートが構成されている。	
資料	○単語帳の巻末に各学年で学習したことが会話形式で振り返られるページがある。 ○2 年間で 1 冊の My Dictionary が付いている。 ○巻末にミシン目のあるイラストカードがついている。	
表記・表現	○書き写す活動は、手本が上段になっていて見やすい。 ○多くのページが優しい色調になっている。 ○日本語はユニバーサルデザインフォント、英語はオリジナルフォントで文字は小さいがすっきりしている。	
総括	(全体的な特徴・その他) 学期ごとにゴールを意識しやすい構成となっている。発表動画や児童が話している動画が 3 種類ほどあり、自分が目指したい姿を選んで学ぶことができる。また、資料や活動が絞られており、授業を組み立てる上で教科書に記載されている活動のほとんどに無理なく取り組めると考えられる。	

【外国語（英語） 調査資料 1－4】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	ONE WORLD Smiles	17 教出
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○各 Lesson が Let' s watch から始まり、Final Activity へとつながっている。その中で読んだり書いたりする活動を行い、知識技能を身に付けられるようになっている。 ○母音の発音の違いや、近い発音の言葉を判別する問題が多めにある。英語とカタカナ語の違いやフォニックスについて継続して取り扱っている。 ○アルファベットの練習は、書き始め、参考とする書き順が矢印で表されていて見やすい。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○5, 6 年ともに巻頭に Let' s start together というコーナーがあり、実際の場면을想像しやすく、活動の幅が広がりやすい。 ○Think というコーナーでは自分の考えを書く活動がある。 ○各単元の最初に友達と考えたことを伝え合う活動がある。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○観光マップを作る、パンフレットを作るなどまとめ方が様々あり、数人で協働する課題もある。 ○単元の内容と、世界について紹介するページの内容が合致している。 ○5 年では日本、6 年では世界の名所・名物マップが用意されており、日本や海外の文化に目を向けるよう工夫されている。 ○教材に低学年時に他教科で扱った題材などが使用されており、他教科との関連が見られる。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○巻末の発表・まとめ用の切り取りページは大きくて発表に使いやすい。裏面にはメモを書く欄があり、表を見せながら、自分はメモを見ながら発表できるようになっている。 ○ペアでの話し合いの例に、言葉を変える部分が空欄になっていたり、①②のように話す順番の数字がふってあったりし、わかりやすい。 ○Good idea. Great. などリアクションの表現が示されている。	
資料	○活動によって紙質を使い分けており、特にワークシートは書きやすい紙となっている。巻末にミシン目入りのイラストカードが付いている他、5 年には巻末に活動用のシールもある。 ○教科書巻末に単語集が付いており、別冊ではなく教科書と 1 冊にまとまっている。 ○6 年では 8 回分、各レッスンの Final Activity を絵や文でまとめられるワークシートが用意されている。	
表記・表現	○ユニバーサルデザインフォントを使用しており、見やすい。 ○見開きのページに余白が多く、すっきりして見える。	
総括	（全体的な特徴・その他） 低学年の道徳やその他の教科で扱われた題材を取り入れるなど他教科とのつながりを意識して構成されている。ゴールの設定がシンプルに設定されている。学習活動があまり多くなく、授業者によってアレンジしやすい。単元のゴールに使える資料や、はがせるシールなどの資料が教科書についていて、楽しみながら学習することができる。	

【外国語（英語） 調査資料 1－5】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	Here We Go!	38 光村
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○Unit が Hop, Step1, 2, Jump で構成されている、それぞれのページにゴールが書かれていて見通しをもちやすい。 ○年間 3 回（学期に 1 回）まとめのページがあり、パフォーマンス評価ができる。 ○単元の流れが統一されており、見開きのまま学習を進めていけるのでわかりやすい。 ○Unit のはじめのページにその Unit で使う語句が多く載っており、単語帳を使わなくてもスムーズに使いたい語句を探すことができる。 ○5 年生の早い段階から四線に書く活動がある。定型の部分はなぞり書きで、自分で考えた内容は書き足すようになっている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○やりとりの活動にレスポンスの表現が示され、コミュニケーションを続ける助けとなる。 ○言葉について考えようのコーナー「相手の心に届くスピーチ」ではよい例とそうではない例の両方が映像で示され、良いスピーチとはどのようなものか考えさせるようになっている。Small Talk はその Unit で学習する内容と関連している。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○「世界の友達」というコーナーで同世代の子供の生活を元にして異文化が紹介されており、親しみを感じやすい。他の活動でも異文化の紹介については多くが同世代の子が紹介する形をとっている。扱っている国の数は多くはないが、人口や首都など基本的な知識をおさえることができ、国の理解につながる。 ○「言葉について考えよう」の項目があり、（5 年生 2 項目、6 年生 3 項目）、日本語と英語の違いを考えたり、言葉を通じて相手に思いを届けるにはどうすればよいかを考えたりするきっかけを与えている。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○単語や文を書くときのルールや、躓きやすいポイントをイラストや例文を使って解説するページが各学年に設けてある。 ○Small Talk 用の動画アニメがあり、既習表現を自然と使うことができる。	
資料	○単語集は教科書に付属したままでも、外しても使用できるようになっている。5, 6 年で内容は異なり、5 年生のものには 3, 4 年生で扱った語句にマークが、6 年生のものには 3, 4 年生で扱った語句と 5 年生で扱った語句にマークがある。 ○5 年の初めのうちに使えるよう切り取れる単語カードがある。	
表記・表現	○日本語はユニバーサルデザインフォント、英語はオリジナルの書体で見やすい。絵の中に入り込んだ文字はその部分だけ背景を白くし、読みやすくしている。 ○指示や会話文は、単語や問題を解く場所の文字と比較し、太く見やすくなっている。	
総括	（全体的な特徴・その他） めあてが明確に示され、それに向かって単元が構成されているので見通しが持ちやすく、教師が教えやすい、児童がわかりやすい授業が組み立てられる。また、会話のつながりや、書き方の注意など細かいところまで示されており、指導に生かすことができる。全体を通して会話が長く続くよう工夫されている。	

【外国語（英語） 調査資料 1－6】 第 14 採択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	Blue Sky elementary	61 啓林館
内容	〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉 ○英語を書く活動が 5 年生の早い段階から少しずつある。ヒントになる Word List のページが載っており、参考にしやすい。 ○Activity の QR コードからはヒントにつながっており、単語を選択することで英文が完成するようになっている。また、選択して作成した英文の音声も聞くことができる。 ○短時間で行える活動が多く取り入れられ、学習した内容をすぐに試せるようになっている。 ○Chants が文字で示されている。どこにストレスを置くのか赤い点で示されたり、音の上がり下がりが矢印で示されたりしている。 〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○ユニットの初めの Watch the Scene ではどのような場面でどんなことを話しているか想像する活動がある。 ○会話の動画を見ながら、話していた人物がどのような工夫をしていたかという問いがある。 ○メモをしたり、聞いたりしたことを書く欄の枠が大きく、一つのことだけではなく、多くの気が付いたことを書くことができる。 〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○Friends around the world ではいろいろな国の英語を話す子どもが出てくる。世界で話されている様々な英語を聞くことができたり、他の国の文化を知ったりすることができる。 ○5 年に世界地図、6 年に日本地図と名所・名物の紹介があり、自国と他国の文化理解に配慮している。 〈聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するための工夫〉 ○各学年の巻頭に話し方や聞き方の工夫、やりとりの工夫について示されている。 ○Unit の最後にある Activity では 5 年生は書き方のヒントが近くに示され、6 年生は例文が近くに示されており、取り組みやすい。 ○Let's Read and Write ではスモールステップで文字と音を結びつけ、読むことと書くことの両方の力を伸ばすことができる。	
資料	○Word List は教科書と一体。 ○巻末のミシン目で切り取って使える単語カードの数が多い。 ○表紙の QR コードからすべてのデジタル教材の一覧に行けるのが便利である。教科書の中にも QR コードが細かく配置され、必要なデジタル教材にアクセスしやすい。 ○5, 6 年同一の取り外しのできる会話を楽しむフレーズ集が巻末にある。	
表記・表現	○ユニバーサルデザインフォント使用。 ○文章や単語のフォントは統一されており、見やすく、写しやすい。 ○イラストは柔らかな印象を受ける。	
総括	（全体的な特徴・その他） Chants が文字で載っており、強く言うところを示されているので、文字と音を結びつけやすくなっている。全体的に読む活動が多く取り入れられているのが特徴である。また、QR コードをデジタルコンテンツを使いやすくするために多く配置している。また、6 年では多くの文を書けることを意識した構成となっている。	

【道徳科 調査資料１－１】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新編 新しい道徳	2 東 書
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○巻頭には、１時間の学習を通して自己を見つめる際の考え方が例示されており、各教材末の問いや投げかけを掲載し、問題意識を隆起して自分とのかかわりで主体的な学びができるように工夫されている。 ○教材文の中の多様な考えを阻害しかねない記述を削除し、教材文の終末部分を児童の心情に疑問や課題を投げかける表現にするなど、心情理解や価値の押しつけにならない「考える道徳」を意識した工夫が見られる。 ○教材末に道徳の学びと他教科等や日常生活とのつながりを示唆する「つながる・広がる」が設けられ、具体的な道徳的行為への身構えや実践意欲へつながる工夫がある。また、巻末の「学びの記録」で心に残った教材を書き、定期的に振りかえられるよう工夫されている。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○現代的課題に取り組む５つのユニットが全学年に設定され、他教科や家庭との連携、コラムと教材を組み合わせ、課題解決のための意欲を高められるよう工夫されている。 ○「いじめ」ユニットでは、いじめの場面を直接的に扱う教材と関係する価値から間接的に考える教材の２教材とコラムを組み合わせ、様々な角度から考えられるよう工夫されている。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○スタートカリキュラムとして１年生の入門期に「どうとくスタート」を位置づけ、道徳科の授業の具体的な学習活動を取り入れた教材や絵、写真を中心とした構成を工夫している。 ○「いじめ」「命（生命の尊厳）」「じぶん（自己肯定感）」については、児童の実態や課題を意識して、全学年同時期に位置付け、命の尊さや自分のよさや可能性について見つめられるよう工夫されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○巻頭「ちょっと話し合ってみよう！」で、ミニ教材を使って考え議論する学び方を知ることができ、巻末の思考ツールを活用することで多様な感じ方、考え方があることに気づけるとともに、話し合い活動を促すことができるよう工夫されている。 ○全学年に問題解決的な学習と役割演技や動作化など道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた教材が掲載されており、多様な指導方法でねらいに迫れるよう工夫されている。	
資料	○場面絵やダイナミックな写真等、価値に迫りやすい挿絵やレイアウトが工夫されている。 ○教材理解が深まるデジタルコンテンツ（朗読、スライドショー、デジタルノート、心のメーター等）が用意されている。 ○全学年、巻末に思考ツールの紹介と４～６年生には「心情円」が切り取りで使えるようになっていて、自分の心の中を見つめることができるよう工夫されている。	
表記・表現	○１年生は教材の初出のカタカナにルビが振られている。漢字については、１年生は数字のみ、２年生からは全学年までに習った漢字を使用し、固有名詞などは該当学年以上の配当漢字は教材ごとにルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。太めで見やすいUDデジタル教科書体を採用している。 ○タイトルデザインはシンプルで、先入観なく教材が読める配慮がある。内容項目の４つの視点のマークは、色だけでなく絵柄も変えてUDに配慮している。	
総括	○体験的な学習や思考ツールの紹介、問題解決的な学習指導過程を提案するページを設け、自然に「考え、議論する道徳」授業になり深い学びにつながるよう工夫されている。 ○「いじめ防止」について、丁寧に繰り返し様々な角度や視点でいじめ問題への意識を高め「いじめをしない、許さない心」を育めるように工夫されている。	

【道徳科 調査資料１－２】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学道徳 はばたこう 明日へ	17 教 出
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○巻頭には見通しをもち主体的に学習に取り組めるよう学びのガイダンスを設け、各教材冒頭には主題名を明記し、道徳的価値の方向性を明確にし、「導入」の投げかけで問題意識を高め自分との関わりで考えられるよう工夫されている。 ○「学習のてびき」に様々な問いが設けられ、多様な視点から物事を見つめ、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。問いには、道徳的価値の理解に迫るものが盛り込まれており、自分の生き方について考えを深めることができる。 ○各教材末や巻末で、定期的に学習を振り返り成長を実感し、これからの課題や目標を見つけられるよう工夫されている。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○「いじめ」「情報モラル」では、全ての学年で重点テーマとして「内容項目の異なる２教材＋コラム」のユニット構成にしてあり、６年間を通して発達段階や生活環境に即して様々な角度から深く考えられるよう工夫されている。 ○SDGs等に関連する教材や資料を用意し、学びを広げ、現代社会が抱える問題について一人一人が考え、実践意欲を高められるよう工夫されている。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○モラルスキルトレーニングを各学年２教材ずつ配置し、身近なルールを守ることの大切さや日常生活を送る上での立ち居振る舞いを体験的に学習できる教材を用意している。 ○各学年で重点テーマを設定し、より深く新たな観点で学べるように同じ内容項目を時期を変えて複数回学習し、児童の成長も見取れるよう工夫されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○一時間で考えを深め議論するための発問を二種類用意し用意し、ねらいとする道徳的価値について深く考えられるよう工夫されている。 ○教材に応じて「問題を解決しよう」「やってみよう」欄が設けられ、問題解決型や体験型の学習ができるよう工夫されている。	
資料	○魅力ある多種多様な教材（モラルスキルトレーニングや役割演技などの体験的な学習の教材や、イラストを全面に使った教材、児童の興味を引く漫画形式の教材等）と質の高い道徳授業ができる定番教材や、偉人や現在活躍する人物を扱う人物教材がある。 ○全教材タイトル下にQRコードを掲載し、物語の解説や関連図書の紹介、参考になるWebサイトが見られるようになっている。	
表記・表現	○１年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、１年生は数字のみ、２年生からは当該学年配当漢字までを使用し、固有名詞などの当該学年以上の漢字のすべてにルビが振られている。難解語句や必要な情報がには、脚注で解説している。UD教科書体（空間広め）、分かち書きや文節改行（低学年）、ふりがなに可読性の高いゴシック体を採用している。余白を大きくし圧迫感無く読みやすい紙面になるよう工夫している。 ○４つ内容項目ごとのタイトルカラー、主題名を明記、キャラクターによる導入やQRコードの「まなびリンク」により、主体的な学びや問題意識を高められるよう工夫している。	
総括	○「学習のてびき」は、児童が考え議論しながら自分の生き方について考えを深められる発問で構成されていて、「やってみよう」「つなげよう」「問題を解決しよう」を活用することで学びやすく、教えやすい多様な学びが実現できるよう工夫されている。 ○人権問題やSDGs、LGBTQや新型コロナウイルス感染症に関する内容など、現代社会に対応した多様な教材がある。	

【道徳科 調査資料１－３】 第１４探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	道徳 きみが いちばん ひかるとき	28 光 村
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○全学年通して、教材末に学習の手引き「考えよう・話し合おう」が設けられ、自分に引き寄せて考えたり、問題を解決するために話し合ったりするなど、多面的・多角的に考えられる発問が工夫されている。 ○巻頭には「何を学ぶ教科なのか」「一年間の学びの流れ」が掲載され、教材冒頭にキャラクターによる「自分ならどうするだろう、どうかんがえるだろう」という問いかけにより、自分との関わりの中で主体的な姿勢で学習に取り組めるよう工夫されている。 ○巻末に、全時間分の学びの記録と「考える」「聞く」「今後の生活」に関する３種類のシールを選択・蓄積することにより、１年後には道徳性の成長の記録を自己評価できるよう工夫されている。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○「いじめ」「情報モラル」「環境」「共生」については、ユニット（教材+教材+コラム）を配し、学習する時期を意図的に配置し、４つの重点テーマに問題意識を持って探求できるよう工夫されている。 ○児童がＳＤＧｓを自分のこととして考えられるよう、発達段階に応じた話題を教材として取り上げ、自分の生き方と関わらせながら考えが深められるよう工夫されている。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○児童の生活実態や発達段階に合わせて、内容、分量、世界の広がりなど学年に沿った内容となっており、スタートカリキュラムを意識した内容も工夫されている。 ○全学年「生命の尊さ」に重点を置き、学期に１つずつ位置付けられ、詩や日常生活の中から、児童が生命の尊さを実感できるよう工夫されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○「学びの道具箱」に学年に応じた授業に活用できるツールが掲載され、自分の考えを整理したり、友達と話し合ったりできるよう工夫されている。 ○５、６年生には教材に合わせて「問題解決的な話し合い」を手引きに組み込み、児童がより主体的に学びに取り組めるように、教材への向き合い方のヒントを示してある。	
資料	○実話、伝記、スポーツ選手などのテーマが取り上げたり、短編の話や漫画等の読み物とは異なる形式の教材が用意されたりして、児童の学習意欲を喚起するよう工夫されている。 ○学び方やコラムなど教材に付随したツールと声優による音声朗読やインタビュー動画などのデジタルコンテンツが用意されている。	
表記・表現	○１年生は教材の初出のカタカナにルビが振られている。漢字については、１年生は、数字のみ、２年生からは当該学年の配当漢字までを使用し、２年生以上で当該学年の配当漢字全てにルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。UDフォント、カラーユニバーサルデザインを採用している。 ○タイトルデザインは、４つの内容項目を分かりやすい言葉と色、マークで表し、キャラクターの吹き出しによる導入が児童の日常と教材をつなげる工夫となっている。	
総括	○発達段階と教材に合わせて、登場人物への自我関与、問題解決的な学習、道徳的な行為に関する体験的な学習で道徳的価値の自覚が深められるよう工夫されている。 ○「いじめ」について、じっくり考え、様々な観点からいじめと向き合い、友達とよりよい関係を築くことができるよう、ソーシャルスキルトレーニングを全学年５、６月に設けている。 ○絵本や詩、一枚絵から考える教材、漫画、スポーツ選手、伝記を題材にした教材があり、写真やイラストのレイアウトも工夫されている。	

【道徳 調査資料 1－4】 第 1 4 探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート	1 1 6 目 文
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○巻頭にオリエンテーションページが配置され、教材冒頭にはリード文と共に自分との関わりで考えさせる問いを掲載し、主体的に道徳的価値の理解が深められるよう工夫されている。 ○デジタルでも活用できるようになった別冊「道徳ノート」が、毎時間の学びの記録と学期末の振り返りを可能にし、自分と異なる意見を記述する欄に記入することで、多様な考えを尊重できるよう工夫されている。 ○コラム「心のベンチ」では、自己肯定感を高める活動や方法を紹介したり、様々な知識や活動を取り上げたりして、実生活につなげてより深く、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○いじめや情報モラルを各学年に系統的に配列しコラムや複数教材とユニット化して、身の回りの事象から教材へと学びをつなげ、問題意識をもち考えを広げられるよう工夫している。 ○巻末コラムで、SDG s 達成の担い手として多様な人々と協働し、課題を解決しようとする意欲やこれからのよりよい社会について考えられるよう工夫されている。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○児童の発達段階を考慮して、1 年間及び 6 年間を通して系統性を意識し保幼小中の校種間連携に配慮した構成となるよう工夫されている。 ○6 年間を通して重点テーマを各学年に 1 点ずつ系統的に配列したコラム「心のベンチ」を設け、今の自分を見つめ、これからの自分へとつながられるよう工夫されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○教材の後に「ぐっと深める」が挿入され、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的学習の具体的な活動例や留意点などが示され、QR コンテンツからは詳しい動画が視聴でき、「考える道徳」「議論する道徳」を視覚的に捉えられるよう工夫されている。 ○自分の考えや友だちの意見をメモしたり、話し合い活動の中で活かしたりして道徳ノートを活用し、教材とコラムとの往還により、考えを深めることができるよう工夫されている。	
資料	○教材の挿絵には様々な特徴を持った子供が登場し、日常にある多様な姿を表現しており、児童に身近な生活場面を扱った教材から、学習意欲を隆起するよう工夫されている。 ○教材に QR コンテンツ（関連動画、メッセージ、朗読、ワークシート、クイズ等と道具箱）が用意され、授業や家庭学習で活用することで理解が深まり、個別最適な学びをサポートできるよう工夫されている。	
表記・表現	○1 年生は全てカタカナにルビが振られている。漢字については、当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年以上の漢字やキーワード、固有名詞などがある場合には、脚注で解説されている。UD デジタル教科書体が丸みを帯びた文字で見やすくなるよう工夫されている。 ○タイトルデザインには 4 つの内容項目が色とデザインで示され、価値も明記されている。本文前のリード文やキャラクターのつぶやきにより、教材の世界に自然に入れる工夫がある。	
総括	○思考が深まり学びがより確かなものになるように道徳ノートをデジタルでも活用できるよう改善し、授業の活性化や家庭との連携、評価等多様な方法で活用できるよう工夫されている。 ○学び方や活動例が写真や動画で視聴できるようになっており、児童が多面的・多角的、対話的・協働的な学習に取り組む際、視覚的に捉え、参考にできるよう工夫されている。 ○教材ごとにリード文や 3 つの発問が掲載されており、学びの流れを分かりやすく示すことで児童が主体的に学べるよう工夫されている。	

【道徳 調査資料 1－5】 第 1 4 探採地区専門員による研究結果報告

書名 項目	小学道徳 ゆたかな心	208 光 文
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○オリエンテーションで子供が見通しを持って道徳を学ぶことができ、「問いを見つけ、考えを深め、授業後へと広げていく」という一連の学習の流れを紹介し、教材冒頭には、問いかけを掲載し、主題に関わる問題意識を隆起し、主体的に考えられるよう工夫されている。 ○共感や気づき、考えるポイントや考えを広めるための見方が設定され、多面的・多角的な思考を促すよう工夫されている。考えをまとめたり、広めたりするための思考ツールが提示され、様々な角度から考えられるよう工夫されている。 ○巻末折り込みに、自分の学びを見つめて成長を振り返る「学びの足あと」を設けている。なりたい自分や道徳の学習を通して自分の成長や気持ちの変化をより実感し新たな課題や目標を見つけられるよう工夫している。教師が長期的に児童の成長を見取ることもできる。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○全学年「いじめ」「命」「学年独自主題（低：へこんでも立ち直る力、中：みんなで力を合わせて、高：世界中のいろいろな人とのつながるために）」を重点主題として取り上げ、複数時間構成で扱い、児童が多面的・多角的に深く考えられるように工夫している。 ○全学年にコラム（みんなでつくる「私たちの未来」）を設定し、道徳で学んだことを生かし、SDGs の 17 の目標を自分ごととして考え行動していく力を育むよう工夫している。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○重点主題や現代的課題に関する教材は、複数時間で構成され、心の成長が実感できるような発達段階に応じた系統性を明確にして配置するよう工夫している。 ○多様な見方・考え方に接する中で、考えを深め、判断し表現する力を育むことができるよう、自分の考えをもとに話し合ったり、書いたりするなどの言語活動を工夫している。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○全学年通しての共通コラムが設定され、実際に問題となる場面を想定した体験的な活動を通して、よりよい人間関係の構築につなげるよう工夫している ○指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れ、他者の見方考え方を確かめ、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。	
資料	○地域の実態に応じて使える多様な地域教材が用意されている。学校の実態に応じて選択できるよう、全学年 40 点の教材を掲載している。 ○授業の導入や展開時、デジタルコンテンツを活用すると効果的な教材には QR コードを掲載し、インタビュー動画や写真などを活用することで学びをサポートしている。	
表記・表現	○1 年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、1 年生は数字のみ、2 年生からは前学年までに習った漢字を使用し、3 年生までは全ての漢字に、4 年生からは当該学年以上の漢字にルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には脚注で解説されている。字体は UD フォントを採用している。 ○タイトルデザインには、4 種類のアイコンで内容項目の視点を表現し、成長する鳥のアイコンで導入・展開・発展の発問を示している。登場人物の名前と顔絵が掲載されている。	
総括	○全学年に「へこんでも立ち直る（レジリエンス）」に関するコラムを設け、困難を乗り越える「心の力」を理解し、自分らしくたくましく生きるための力を育めるよう工夫されている。 ○オリエンテーション機能を充実させ、道徳の学習で「何をどのように学ぶのか」明らかにし、ものごとを多面的・多角的に考え、自らの学びを深め主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ○絵本、見開きの絵、アニメや漫画教材、スポーツ選手や先人の伝記を題材にした教材がある。	

【道徳 調査資料 1－6】 第 14 探択地区専門員による研究結果報告

書名 項目	新版 みんなの道徳	224 学 研
内容	〈道徳科の目標に関わる工夫〉 ○巻頭で学び方と自分の考えを深めるポイントを掲載し、教材冒頭では主題名は明記せずキープフレーズを掲載することで、児童が主体的に価値の意義や大切さへの理解を深め、自分との関わりで考えられるよう工夫している。 ○「深めよう」では授業の流れを示し、問題解決的な学習を通して、多面的・多角的に思考を広げられるよう工夫されている。「考えよう」では、より深く教材について考える発問が示され、自己を見つめるきっかけになるよう工夫されている。 ○書いたり読んだりすることで考えを深めることができる「心のパスポート」、振り返りや心に残った言葉等が記述できる「つなげよう広げよう」で学びを振り返るよう工夫されている。 〈現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫〉 ○道徳の学びから現代的課題・SDGsへの意識を育むために、関連する教材には、タイトル下部に「現代的な課題マーク」を配置し、自分事として課題に向き合えるよう工夫している。 ○「いのち」「多様性」「キャリア」の3つのテーマについて、ユニットを設定し、全学年で2教材を連続して学べるよう配置し、内容項目の異なる複数教材を用いることで、児童がよりよく生きることにについて様々な面から考えを深められるように工夫している。 〈発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫〉 ○最重要テーマを「いのち」とし、全学年で「生命の尊重」の内容項目を3教材ずつ配置している。「いのちの教育」を土台としたいじめ防止への取組として年間を通して3教材用意し、実施時期を考慮し、児童の成長過程に応じた配置となるよう工夫されている。 ○巻末の「つなげようひろげよう」では、自分の成長を感じ取り、次の学年へスムーズな移行ができるよう工夫されている。 〈「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫〉 ○「深めよう」「心のパスポート」などのページを設け、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的学習に合った教材を取り入れ、自分につなげて考えたり体験したり話題を広げたりできるよう工夫されている。 ○巻頭に「自分を見つめ深めるポイント」（3．4年生）「考えを深めるステップ」（5．6年生）を設け、課題を見つけ、考え、生かすという学び方ができるよう工夫されている。	
資料	○先人だけでなく今活躍している人物を取り上げた教材、話し合いたくなる多様な教材、日本各地に関連した内容を掲載した教材など、学習意欲を喚起できるよう工夫されている。 ○タイトル下部のQRコードから画像や動画、音声、クイズなどの補助教材にアクセスできる。	
表記・表現	○1年生は全てのカタカナにルビが振られている。漢字については、当該学年の配当漢字までを使用し、当該学年の配当漢字や固有名詞は全ての漢字に、前学年までに習った漢字は教材の初出にルビが振られている。難解な語句や必要な情報が掲載されている箇所には、脚注で解説されている。細めのUDフォントで文字が見やすい。 ○タイトルデザインは4つの視点をマークで示し、印象的な言葉のキープフレーズを配置することで問題意識や関心を高める導入になっている。	
総括	○タイトルデザインに主題名を明記せず、児童が問題意識を大切にしながら、自ら学びを主体的に深めていくことができ、様々な授業展開に対応できるよう工夫されている。 ○「深めよう」「心のパスポート」を設け、多様な視点から身近な話題について考え、「考え議論する道徳」を実現できるよう工夫されている。 ○最重点テーマ「いのちの教育」を土台とした様々な視点で物事を捉え自己と向き合い考えを深め、いじめを生まない力を育めるよう工夫されている。	

